



さいたま市

令和6年度
さいたま市学習状況調査
解説資料【改訂版】

【社会】



令和7年2月
さいたま市教育委員会

目 次

調査問題の解説

I 小学校 第5学年

1 調査問題【出題の趣旨】	2
2 調査問題一覧表【設問別】	3
3 正答例	4
4 特徴的な問題と解説	5

II 小学校 第6学年

1 調査問題【出題の趣旨】	8
2 調査問題一覧表【設問別】	9
3 正答例	10
4 特徴的な問題と解説	11

III 中・中等教育学校 第1学年

1 調査問題【出題の趣旨】	14
2 調査問題一覧表【設問別】	15
3 正答例	16
4 特徴的な問題と解説	17

IV 中・中等教育学校 第2学年

1 調査問題【出題の趣旨】	27
2 調査問題一覧表【設問別】	28
3 正答例	29
4 特徴的な問題と解説	30

調査問題等の解説

社会科の調査問題について、小学校第5学年から中学校第2学年まで、以下の内容を掲載しています。「さいたま市小・中一貫教育」の観点からも、小・中学校それぞれの内容を日々の学習指導に役立ててください。

1 調査問題【出題の趣旨】

大問ごとに、出題の意図や趣旨を示しています。特記すべき事項のあるものについては、ここに示しています。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問ごとに、設問のねらい、学習指導要領の領域等、評価の観点、問題形式、正答率(速報値)等を示しています。

3 正答例

問題を解く方法(考え方)やこれまでの学習のつながり等を児童生徒向けに提示しています。

4 特徴的な問題と解説

令和6年度調査において、特徴的な問題を取り上げ、出題の趣旨、指導のポイントを示しています。

また、指導のポイントを具現化し、授業(学び)の改善・充実を図る際の参考となるよう、「学びの知恵袋」として、授業(学び)のアイデアの一例を示しています。

※本書では、調査名について、略称を用いている。

調査名	略称
平成○年度 全国学力・学習状況調査	平成○年度全国調査
平成○年度 さいたま市学習状況調査 小○社会	平成○年度市調査【小○】
平成○年度 さいたま市学習状況調査 中○社会	平成○年度市調査【中○】

なお、本書で記載している全国調査の正答率は、市の正答率を示している。

I 小学校 第5学年

I 調査問題【出題の趣旨】

身近な地域や市	1	本問題は、令和4・5年度市調査でも出題した「身に付けた知識を地図の情報と関連付けて活用すること」に関する問題である。ハ方位及び工場と消防署の地図記号を読み取る問題や、さいたま市の様子が場所や時期によって異なることを読み取る問題を出題している。課題の改善状況や定着率を把握するために、小5と小6で同一の問題を出題している。
県の様子	2	本問題は、令和4・5年度の市調査において課題がみられた「資料から必要な情報を的確に読み取ること」や、「読み取ったことを関連付けて考えること」に関する問題である。さいたま市の人口について、グラフを適切に読み取って選択する問題と、埼玉県ので形の様子と人口が多い市を関連付けて考える問題を出題している。
火事や自然災害から守る	3	本問題は、令和5年度の市調査でも出題した「資料からの的確に情報を読み取ること」に関する問題である。消防指令センターから関係機関に連絡する仕組みを表した図を基に、指令センターが警察署に連絡を行う目的を読み取る問題と、自然災害に対する備えを表した図を基に、自分たちを含めた地域の人々ができることを読み取る問題を出題している。
我が国の国土	4	本問題は、「世界における我が国の国土の位置」と、令和4・5年度の市調査【小5】でも出題した、「日本の各地の気候の特色に関する問題」である。動画を参考にしながら、世界における日本の大まかな位置を選択する問題と、日本の各地の気候の特徴を示す複数の雨温図を、正しく読み取る問題を出題している。
農業 店の仕事	5	本問題は、令和5年度の市調査でも出題した「社会的事象の目的や意味を読み取ること」と、「資料から必要な情報を読み取ること」に関する問題である。「社会的事象の目的や意味を読み取ること」については、スーパーマーケットの人が消費者のどのような願いに応えようとしているのかを、動画を基に考える問題と、複数の資料を基に、これからの食料生産や食生活のための具体的な取組を選択する問題を出題している。「資料から必要な情報を読み取ること」については、グラフを基に、日本の米の生産量や消費量の変化を読み取る問題を出題している。
工業生産	6	本問題は、「資料から必要な情報を読み取ること」に関する問題である。日本の工業生産の様子の変化を読み取る問題と、優れた製品を生産するための工夫や努力を考える問題を出題している。なお、令和5年度の市調査【小5】までは、工業生産額を円グラフで表していたところを、令和6年度は帯グラフに変更し、教科書資料の形に近付けた。

2 調査問題一覧表【設問別】(第5学年)

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の区分			評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		地理的環境と人々の生活	現代社会の仕組みや働きと人々の生活	歴史と人々の生活	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式・短答式・選択式	正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年	正答率(%)
①	(1)	八方位(南東)を理解している。	○		○			選	78.5	0.1	R5市【小5】 R5市【小6】 R4市【小5】 R4市【小6】	79.7 74.6 64.0 62.4	小6	74.8
	(2)	消防署と工場の地図記号を理解している。	○		○			選	91.2	0.0			小6	91.8
	(3)	土地の高さの違いや地図記号から、市の地形の特色を読み取ることができる。	○			○		選	69.9	0.1			小6	76.1
	(4)	土地利用の変化に着目して、市の様子の変化を考えるとすることができる。	○			○		選	82.8	0.3	R5市【小5】 R5市【小6】	88.8 91.2	小6	84.6
②	(1)	埼玉県県のグラフから、さいたま市の人口の数値を正確に読み取ることができる。	○		○			選	80.6	0.1	◎R5市【小5】	78.6		
	(2)	埼玉県内の人口が多い地域と、地形との関わりを考えるとすることができる。	○			○		選	62.9	0.1	◎R5市【小5】	63.5		
③	(1)	火事が発生した際に、警察署が消防署と連携して果たしている役割を資料から読み取ることができる。		○	○			選	89.5	0.1	◎R5市【小5】	91.5		
	(2)	自然災害に備えるために、自分たちや地域の人々ができることを資料から読み取ることができる。		○	○			選	67.6	0.1	◎R5市【小5】	67.4		
④	(1)	世界における我が国の国土の位置を理解している。	○		○			選	43.2	0.2	R5市【小5】	30.9		
	(2)	雨温図から、さいたま市と奄美市の気候の特色を読み取ることができる。	○		○			選	69.8	0.2	R5市【小5】 R4市【小5】	71.8 79.8		
⑤	(1)	販売の仕事が、消費者の多様な願いを踏まえ、売り上げを高めるよう工夫して行われていることを考えることができる。		○		○		選	83.6	0.2	◎R5市【小5】	82.4		
	(2)	米づくりの生産量と消費量についてグラフから正しく読み取ることができる。		○	○			選	74.5	0.2				
	(3)	食料生産にたずさわる人々が、工夫や努力をしている様子を考えることができる。		○		○		選	82.0	0.2	◎R5市【小5】	75.7		
⑥	(1)	日本の工業生産の概要をグラフから正しく読み取ることができる。		○	○			選	71.2	0.4	R5市【小5】 R4市【小5】	62.2 58.3		
	(2)	消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産しようとする工夫や努力を考えるとすることができる。		○		○		選	40.8	0.2	R5市【小5】	58.5		
	(3)	貿易の輸送手段とその特徴を、正しく考えることができる。		○		○		選	78.0	0.4	R5市【小5】	86.8		

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている(同一問題には◎を付けている)。

調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査 「全国」:全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題等を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【小学校社会 第5学年】

せつ問番号		正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等
1	(1)	3	3年生の「わたしたちのまちさいたま市」の学習では、東・西・南・北の方位（四方位）ごとに、学校のまわりの様子を調べました。四方位よりも細かく方位を表したものを、八方位といいます。問題中の【あ】は「南」と「東」の間に当たるので、3の「南東」が正答です。
	(2)	4	地図記号とは、土地の様子や建物、交通の様子などを表したマークです。地図記号を使うと、地いきの様子を地図から読み取りやすくなります。Yは消防署、☆工場なので、正答は4です。他にもどのような地図記号があるか、地図帳などを活用してたしかめましょう。
	(3)	3	岩槻（いわつき）区北部は元荒川が流れ、田が広がっているだけでなく、工場、寺社、学校など多くの土地利用が行われています。「土地の高さ」を基に地図を見ると、元荒川が4m未満でもっとも低く、田は4m～8m未満、工場は、8m～12m未満に分布していることが読み取れます。また、寺や神社は、土地の高さが8m～12m未満と12m～16m未満の場所に作られていることが読み取れます。
	(4)	1	さいたま市の鉄道や道路のうつり変わりと、土地の利用の変化を結び付けて考える問題です。今から約140年前と今から約50年前とを比べると、今から約50年前は鉄道や道路が広がって家や店が増えた一方で、田んぼや林はへったことが分かります。
2	(1)	3	埼玉県で人口の多い市について、グラフからじょうほうを正かくに読み取る問題です。さいたま市の部分を見ると、人口は「およそ130万人」であることが分かります。
	(2)	4	埼玉県の人口の多い市と、地形の特色を結び付けて考える問題です。資料2から、埼玉県には東の方に低地や台地が広がっており、人口の多い市も集まっていることが分かります。
3	(1)	4	火事による被害をふせぐために、様々な機関が協力していることを考える問題です。資料1から、消防指令センターが中心となって、火事による被害を最小げんにするために様々な機関に連らくを取っていることが分かります。けい察しよには、交通整理をお願いしていることが分かります。
	(2)	3	関係図をもとに、自然災がいにそなえるために自分たちでできることを考える問題です。資料2から、わたしたちも地いきの一員として、訓練に参加するなどの取り組みを通して、自然さい害にそなえることができることが分かります。
4	(1)	【1】あ 【2】い 【3】あ 【4】あ (完答)	世界の中での日本の位置について考える問題です。日本は北半球にあり、ユーラシア大陸のすぐ東に位置しています。また、日本海やオホーツク海、太平洋などの海にかこまれています。地球上の位置としては、スペインとほぼ同じい度にあります。「い度」と「経度」のちがいに気を付けましょう。
	(2)	4	雨温図をもとに、さいたま市と奄美（あまみ）市の平きん気温やこう水量をくらべる問題です。二つのグラフから、奄美市は1か月の平きん気温が10℃を下回ることではなく、さいたま市に比べてあたたかい地いきにあることが分かります。
5	(1)	1	スーパーマーケットで働く人の仕事について考える問題です。資料1から、スーパーマーケットの人は、お客さんがほしい品物をいつでも買うことができるように、商品の売れ行きに応じて品物を発注し、店頭にならべていることが分かります。
	(2)	1	他の選たくしのまちがいをかくにしてみましょう。選たくし2については、1965年から1995年までに米の生産量が消費量を下回ったときがあるため、まちがいです。選たくし3については、1965年と2020年の米の生産量を比べると約400万トン下回っているため、まちがいです。選たくし4については、1995年から2020年までに米の生産量が前年よりもふえているときもあるため、まちがいとなります。
	(3)	3	食料生産にかかわる人々のくふうや努力について考える問題です。資料3のウから、魚の群れをさがすために機械（ソナー）も使用していることが分かるため、選たくし3は、ふさわしくないといえます。
6	(1)	1	他の選たくしのまちがいをかくにしてみましょう。選たくし2については、工業生産がくの全体にしめるわり合は、1935年にせんい工業が一番多くなっているため、まちがいです。選たくし3については、日本全体の工業生産がくは、時代によって大きく変化していることが分かるため、まちがいです。選たくし4については、金ぞく工業の工業生産がくの全体にしめるわり合と金がくは、1980年が約17%（約37兆円）、2020年が約13%（約40兆円）となっており、工業生産がくとしてはぞう加していることが分かるため、まちがいとなります。
	(2)	1, 4 (完答)	資料2から、べんとう箱のふたのビニールの部分だけ外せるようにすることで、紙の箱をさい利用しやすいように、くふうしていることが分かります。社会のニーズに応えるために、かんきょうにあたえるえいきょうも考えながら、作り方などを見直し、よりよいせい品を作ろうとしていることが分かります。
	(3)	2	選たくし1のトラックは、出発地から目的地まで荷物を直せつ運ぶことができます。選たくし3の貨物用のこう空機は、小がたの荷物を短時間で運ぶことができます。選たくし4のコンテナ船は、一度に大量の荷物を運ぶことができ、ひ用をおさえることができます。

4 特徴的な問題と解説

小学校第5学年 社会 地理的環境と人々の生活

【特徴的な問題】

(1) 【動画問題】 世界の中での日本の位置について、次の動画を参考にして、□【1】□ ～ □【4】□ に入る言葉を、それぞれ下のあ、いから一つずつ選びましょう。(※動画に音声はありません。)

日本は □【1】□ にあり、□【2】□ のすぐ東に位置しています。日本海やオホーツク海、□【3】□ などにかこまれています。また、スペインと同じ □【4】□ があり、オーストラリアと同じけいど経度にあります。

【出題の趣旨】

本問題は、令和4年度及び令和5年度市調査【小5】でも出題した、「大陸の名称や世界における日本の位置」に関する問題である。平成29年度より、課題の改善状況を捉えるために継続して出題している。デジタルの優位性を生かして、児童が問題文だけでなく動画も参考にして答えを導くことのできる設問としている。

【指導のポイント】

本問題では、小学校学習指導要領社会第5学年の内容(1)に基づき、我が国の国土の位置について、地図帳や地球儀などの各種の資料で調べ、まとめる学習活動を意識している。特に、地球儀については、小学校学習指導要領解説社会編に「平面地図に比べて、大陸や海洋、主な国の面積や相互の位置関係をより正確に捉えることができる」、「第5学年の始めには、地球儀に触れる活動を通して、少しずつ使い方に慣れ、こうした特徴を実感できるようにすることが大切である」とされている。そこで、名称、位置、方位、距離等の基本的な情報を読み取れるようにする。

○世界の大陸と主な海洋に着目させる。

- 日本から見た方位や位置関係を正しく読み取れるように、主な大陸や海洋の名称を付箋等で貼る。

○緯度、経度などによる位置の表し方について扱う。

- 緯度や経度を視覚的に捉えられるように、紙テープを貼り、日本と世界の国々との位置関係を調べる。



日々の授業改善の視点として、地球儀を活用する場面では、例えば、「世界の大陸や主な海洋、主な国の位置などを確かめる」、「それらと我が国との位置関係について方位を使って調べる」、「主な国の位置を緯度や経度を用いて言い表したり、面積の大小や日本からの距離を大まかに比べたりする」といった学習活動が考えられる。

第5学年の始めだけでなく、様々な場面で児童が自ら地球儀を活用することで、資料活用の技能、空間的な見方・考え方を育むことが大切である。

【学びの知恵袋(授業アイデア例)】「日本の国土と世界の国々」(実施対象学年 第5学年)

○世界の国々や大陸、海洋との位置関係、緯度・経度、国土を構成する島々などの知識をつかって、日本の国土の位置や構成、広がりについて、様々な表現を考えて短文で書き表し、発表し合うことで、日本の国土の様子をより広い視野から捉えられるようにする。



前の時間までに学習してきたことをキーワードとして出し合って、世界の中で日本の国土はどのように広がっているのか、学習問題の結論を考えましょう。

①学習問題「世界の中で、日本の国土はどのように広がっているのだろう。」についての結論を話し合うため、使えそうなキーワードを出し合う。



まずは、キーワードを出し合いましょう。「地球儀」では？

「北半球」「南半球」「赤道」「緯度」「経度」



「大陸」は？

「ユーラシア大陸」「北アメリカ大陸」
「南アメリカ大陸」「アフリカ大陸」
「オーストラリア大陸」「南極大陸」



「海洋」は？

「太平洋」「インド洋」「大西洋」



「日本の周囲にある海」は？

「日本海」「太平洋」「オホーツク海」など



「日本の周囲にある国」は？

「ロシア連邦」「中華人民共和国」
「大韓民国」など



「日本と同じ緯度・経度の国」は？

「緯度はスペイン王国」「・・・」
「経度はオーストラリア連邦」「・・・」



「日本の領土や範囲」は？

「北海道」「本州」「四国」「九州」
「沖縄島」「北方領土」「択捉島」
「南鳥島」「沖ノ鳥島」「与那国島」



「6, 800以上の島々がある。」



解説

- 各班ごとに地球儀を用意し、児童各自が地図帳を活用することで、視覚的に捉えられるようにする。
- 前時までの授業で、キーワードを見付けるごとに、カード化して掲示しておく、スムーズに展開できる。
- 可能であれば、各班の地球儀にキーワードが書かれた付箋を貼ってあると、児童は、地球儀を見ながら発言することができる。

②学習問題「世界の中で、日本の国土はどのように広がっているのだろう。」についての結論を、出されたキーワードをつかって話し合う。



「キーワードや方位を使って、日本が世界のどこにあるのか、日本の国土はどうなっているか。（範囲や構成）」について、地球儀や地図帳を指し示しながら、いろいろな表し方をしましょう。

どこの位置

「日本は、ユーラシア大陸の東にあります。」

「日本は、太平洋、日本海、オホーツク海に囲まれています。」

「日本は、中華人民共和国の東にあります。」

「日本は赤道より北にあります。」
「日本は、北半球にあります。」

「日本は、フィリピン共和国の北東にあります。」

「日本は、スペイン王国と同じ緯度にあります。」

「日本は、オーストラリア連邦と同じ経度にあります。」

どうなっているか（国土の範囲や構成）

「北海道、本州、四国、九州や沖縄島などでできています。」

「6, 800をこえる島々でできています。」

「北は択捉島から、南は沖ノ鳥島まで、東は南鳥島から西は与那国島まで広がっています。」

<解説>

○以下のような文例を示して、児童を支援する。

- ・□□□の北（南、東、西）にあります。
- ・□□□に囲まれています。
- ・□□□と同じ緯度（経度）にあります。

③話し合ったことをもとに、三択クイズや○×クイズをつくり、友達とクイズを解き合う。



「日本の位置や構成」三択クイズをつくりましょう。（例を示す）日本はユーラシア大陸の（①東、②西、③南）にあります。

解説

- 個人かグループかを自分で選んで作成、パワーポイント、オクリンク等を活用してクラウド上につくり、クラスや学年の友達と解き合うようにすると、たくさんの問題に触れられ、学びが深まる。
- 紙等で行う場合は、画用紙等に問題を書き、友達と解き合うこともできる。

Ⅱ 小学校 第6学年

Ⅰ 調査問題【出題の趣旨】

身近な地域や市	①	本問題は、令和4・5年度市調査でも出題した「身に付けた知識を地図の情報と関連付けて活用すること」に関する問題である。八方位及び工場と消防署の地図記号を読み取る問題や、さいたま市の様子が場所や時期によって異なることを読み取る問題を出題している。課題の改善状況や定着率を把握するために、小5と小6で同一の問題を出題している。
飲料水の確保	②	本問題は、令和5年度市調査でも出題した「資料から必要な情報を的確に読み取ること」に関する問題である。飲料水の確保について、水源地から家庭や学校に供給されるまでの流路を適切に読み取る問題と、動画を基に、動画の撮影地点を見沼代用水の流路図から適切に選択する問題を出題している。
くらしと産業を変える 情報通信技術	③	本問題は、令和5年度市調査でも出題した「情報や情報通信技術を活用する産業」に関する問題である。本単元は、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させることを理解できるようにすることを目標としている。産業によって情報の活用の仕方が異なることを考える問題と、情報の利用者として大切だと思うことについて考える問題を出題している。
憲法と私たちの暮らし 自然災害	④	本問題は、令和5年度市調査でも出題した「我が国の自然災害」及び「日本国憲法と我が国の政治」に関する問題である。資料から我が国の自然災害の特色を読み取る問題と、我が国における政治の仕組みを読み取る問題、さらに、日本国憲法の基本的な考え方について適切に選択する問題を出題している。
飛鳥時代から 室町時代の主な文化	⑤	本問題は、令和5年度市調査でも出題した「飛鳥時代から室町時代にかけての文化の様子」に関する問題である。年表を手掛かりに、源氏物語絵巻が描かれた時代、その時代を代表する文化を選択する問題、書院造の部屋の様子を手掛かりに、室町時代に広まった文化を選択する問題を出題している。
日本の国づくりと世界とのつながり	⑥	本問題は、令和5年度市調査でも出題した「様々な時代における我が国の国づくりと、世界とのつながり」に関する問題である。8世紀ごろの日本と世界とのつながりや、正倉院の宝物などを手掛かりに、我が国が大陸文化を摂取してきたことを読み取る問題、年表等を手掛かりに、織田信長や豊臣秀吉が戦国の世を統一した過程を考える問題、明治政府による諸改革を手掛かりに、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを考える問題を出題している。

2 調査問題一覧表【設問別】（第6学年）

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の区分			評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		地理的環境と人々の生活	現代社会の仕組みや働きと人々の生活	歴史と人々の生活	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式・短答式・選択式・短	正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名【学年】	正答率（％）	出題学年	正答率（％）
1	(1)	ハ方位（南東）を理解している。	○			○		選	74.8	0.2	R5市【小5】 R5市【小6】 R4市【小5】 R4市【小6】	79.7 74.6 64.0 62.4	小5	78.5
	(2)	消防署と工場の地図記号を理解している。	○			○		選	91.8	0.0			小5	91.2
	(3)	土地の高さの違いや地図記号から、市の地形の特色を読み取ることができる。	○			○		選	76.1	0.0			小5	69.9
	(4)	土地利用の変化に着目して、市の様子の変化を考えることができる。	○			○		選	84.6	0.2	R5市【小5】 R5市【小6】	88.8 91.2	小5	82.8
2	(1)	飲料水が供給される仕組みを、資料から読み取ることができる。	○			○		選	69.4	0.2	R5市【小6】	61.8		
	(2)	地域の発展に尽くした先人の働きを読み取ることができる。	○			○		選	58.4	0.2	R5市【小6】	40.0		
3	(1)	大量の情報や情報通信技術がスーパーマーケットで活用されているよさを資料から考えることができる。		○		○		選	89.8	0.1	R5市【小6】	84.3		
	(2)	情報を有効に活用することについて、情報の受け手の立場から考えることができる。		○		○		選	73.4	0.2	R5市【小6】	91.6		
4	(1)	国土の自然災害の状況について理解している。		○		○		選	80.0	0.1	R5市【小6】	93.3		
	(2)	法律が作られるまでの過程から、国の政治の仕組みを読み取ることができる。		○		○		選	75.0	0.2	R5市【小6】	85.5		
	(3)	日本国憲法の基本的な考え方と国民生活を関連付けて、憲法の特色や役割を考えることができる。		○		○		選	65.9	0.2	R5市【小6】	85.9		
5	(1)	年表を手掛かりに、源氏物語絵巻がえがかれた時代と、その時代を代表する文化を選択することができる。			○	○		選	62.7	0.3	R5市【小6】	53.0		
	(2)	書院造の部屋や生け花の様子を手掛かりに、室町時代に広まった文化を選択することができる。			○	○		選	67.8	0.2	◎R5市【小6】	65.1		
6	(1)	8世紀ごろの日本と世界のつながりなどを手掛かりに、我が国が大陸文化を摂取してきたことを読み取ることができる。			○	○		選	75.2	0.3	R5市【小6】	76.3		
	(2)	年表等を手掛かりに、織田信長や豊臣秀吉が戦国の世を統一した過程を考えることができる。			○	○		選	78.9	0.3	R5市【小6】	81.0		
	(3)	明治政府による諸改革を手掛かりに、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを考えることができる。			○	○		選	68.1	0.3				

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査 「全国」：全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【小学校社会 第6学年】

設問番号		正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等
1	(1)	3	3年生の「わたしたちのまちさいたま市」の学習では、東・西・南・北の方位（四方位）ごとに、学校のまわりの様子を調べました。四方位よりも細かく方位を表したものを、八方位といいます。問題中の【あ】は「南」と「東」の間に当たるので、3の「南東」が正答です。
	(2)	4	地図記号とは、土地の様子や建物、交通の様子などを表したマークです。地図記号を使うと、地いきの様子を地図から読み取りやすくなります。Yは消防署、Sは工場なので、正答は4です。他にもどのような地図記号があるか、地図帳などを活用してたしかめましょう。
	(3)	3	岩槻（いわつき）区北部は元荒川が流れ、田が広がっているだけでなく、工場、寺社、学校など多くの土地利用が行われています。「土地の高さ」を基に地図を見ると、元荒川が4m未満でもっとも低く、田は4m～8m未満、工場は、8m～12m未満に分布していることが読み取れます。また、寺や神社は、土地の高さが8m～12m未満と12m～16m未満の場所に作られていることが読み取れます。
	(4)	1	さいたま市の鉄道や道路のうつり変わりと、土地の利用の変化を結び付けて考える問題です。今から約140年前と今から約50年前とを比べると、今から約50年前は鉄道や道路が広がって家や店が増えた一方で、田んぼや林はへったことが分かります。
2	(1)	1	水がどのようにわたしたちのもとに届くのかを、資料から読み取る問題です。資料1から、埼玉県の水場に取り入れている水は、埼玉県だけでなく群馬県からも流れているため、1はふさわしいといえます。
	(2)	①	見沼代用水の流路について、資料から考える問題です。映像と説明により、見沼代用水が水を取り入れている利根川からの取水口だと分かります。
3	(1)	3	スーパーマーケットでの情報の利用について、資料から読み取る問題です。資料1から、スーパーマーケットでは商品の売れ行きなどのデータを活用して商品を発注し、売れ残りも売り切れも起きないようにしていることが分かります。
	(2)	2，5（完答）	複数の資料をもとに、情報社会を生きる上で大切なことについて考える問題です。資料3から、「ソーシャルメディア」上では、いいかげんなその情報も広げることがあるので、様々な情報と見比べて、正しい情報かどうか確かめることや、情報を発信しているのがだれ（どこ）なのかを確かめることが重要であると分かります。
4	(1)	2	国土の自然条件などと関連して、全国各地で自然災害が発生していることについて考える問題です。資料1から、日本では国土の広いはん囲にわたって、大きな地震が起きたことが分かります。
	(2)	4	国の法りつがでる過程や、国会のしゅう議院と参議院のちがいについて考える問題です。資料2から、法りつがでるまでにはしゅう議院と参議院とで何度も話し合いを行い、しん重に決めていることが分かります。
	(3)	3	【あ】では、日本国けん法の基本的な考え方について、【い】や【う】では、国民の意見と政治がどのように関連しているかについて、当てはまる言葉を考える問題です。【あ】には「国民主権」、【い】には「選挙」、【う】には「世論」が当てはまります。
5	(1)	4	源氏物語絵巻（げんじものがたりえまき）がえがかれた時代と、同じ時代の文化を選ぶ問題です。大和絵（やまとえ）の一つである源氏物語絵巻には、貴族（きぞく）の生活の様子がえがかれています。同じ時代には漢字をくずした「ひらがな」や、漢字の一部をとった「かたかな」など、日本風の文化が生まれました。
	(2)	1	今も残る生活文化の中で、室町時代に広まったものを選ぶ問題です。室町時代には、現在の和室につながる書院造の部屋で、生け花や茶の湯がさかんに行われました。
6	(1)	2	8世紀ごろの日本と世界のつながりについて考える問題です。資料1～4から、日本は外国と人や物の行き来があったことが分かります。
	(2)	1	戦国の世が統一されていく過程で、織田信長や豊臣秀吉の行ったことを考える問題です。織田信長は、いくさで鉄ぼう（てつぼう）を使うなどして領地を広げました。また、豊臣秀吉は検地や刀がりをを行い、全国を統一しました。
	(3)	【1】あ 【2】あ 【3】い（完答）	明治時代の国づくりについて考える問題です。大久保利通は岩倉使節団として外国へ行き、お米の政治のしくみや産業・文化を学びました。さらに、明治政府は、政治や社会の改かくを進め、ちょう兵令を出して西洋式の軍隊をつくったり、外国から技術者や学者を招き、進んだ技術や知識を教わって、産業をさかんにしようとしたりしました。西洋の文化を取り入れようとする動きは、人々の生活様式や、ものの考え方にも大きなえいきょうをあてえしました。

4 特徴的な問題と解説

小学校第6学年 社会 歴史と人々の生活

【特徴的な問題】

- (1) 資料2の、源氏物語絵巻がえがかれたのは、資料1の㉑～㉔のうち、どの時代ですか。また、その時代を代表する文化として当てはまるのは、資料3の①～④のうちどれですか。
- 【時代】と【時代を代表する文化】の組み合わせとして最もふさわしいものを、次の1～4から一つ選びましょう。

【出題の趣旨】

本問題は、「飛鳥時代から室町時代にかけての文化の様子の理解」に関する問題である。今回は、年表を手掛かりに、大和絵がさかんに描かれた平安時代と、その時代を代表する文化を選択する問題を出題している。取り上げる歴史上の事象と人物の働きや代表的な文化遺産を関連させ、我が国の伝統や文化が長い歴史を経て築かれてきたものであること等に気付くことができるようにする。

【指導のポイント】

○日本風の文化が生まれたことについて調べ、調べたことを関連付けながらまとめ、説明できるようにする。

貴族はどのような生活をしていただろう



藤原道長

和歌
囲碁
七草がゆ

和歌や囲碁など、今でも親しまれている文化は、貴族の文化だったんだ。

11世紀

●藤原道長が政治を行い、藤原氏が栄える

■「枕草子」、「源氏物語」ができる



清少納言
「枕草子」



紫式部
「源氏物語」

十二単などの服装は、平城京の時代と比べて違って見えるね。

国風文化

ひらがな・カタカナ

ひらがなやカタカナが、この時代にできたことに驚き。元々は漢字だったのか。



大和絵

寝殿造や年中行事も、今に受け継がれているように感じるよ。

日々の授業改善の視点として、まずは、年表（出来事が生じた時期や歴史の展開を捉える上で手掛かりとなる資料）や、絵画（当時または後の時代に作成者が特定の考えや気持ちを込めて描いた資料）等、資料の特性に留意して調べることができるようにする。例えば、年表からは「できごとの順序や時代の流れを読み取る」、絵画からは「だれが、どのような目的や思いで、このような絵を描いたのか」などの視点をもって、児童生徒が資料を調べることができるようにすることが重要である。

その上で、代表的な文化遺産などについて、小单元ごとに政治や産業、外国との関係などと関連付けてまとめたり、文化をテーマとしてそれぞれの時代を比較したりする活動等を通して、歴史を学ぶ意味を考えるようにすることが大切である。

【学びの知恵袋(授業アイデア例)】 「新しい文化と学問」(実施対象学年 第6学年)

○世の中の様子や中心となった人物、代表的な内容や作品といった視点を基に、江戸時代に生まれた文化や学問について、その視点ごとに表にまとめる。その中で、各時代(平安時代・室町時代)に生まれた文化と比較することで、江戸時代の文化や学問の特徴を捉えられるようにする。

①学習問題「江戸時代には、どのような文化や学問が生まれたのだろう。」を確認し、単元の学習を振り返る。



江戸時代には、どのような文化や学問が生まれたのでしょうか。

歌舞伎や浮世絵を楽しんでいたよ。

町人の間で広まっていたね。

蘭学や国学も広まったよ。

百姓や町人も学問を学べるようになったよ。



<解説>

○学習問題を改めて確認し、これまでの単元の学習で具体的に調べたことを振り返るとともに、自分なりの答えをまとめていく学習活動を設定することが大切である。

②調べてきたことを、表や年表に整理する。



これまで学んだ文化と比べ、江戸時代の文化の特徴を考えてみましょう。

平安時代は貴族、室町時代は武士や貴族、まちや村の人々が、文化の中心になった人たちだったね。江戸時代は・・・。

その文化が生まれ背景もあったね。江戸時代は、どんな背景があったかな・・・。



<まとめ方の例>

	平安時代の文化	室町時代の文化	江戸時代の文化
時代背景	- 平安京がつくられた。 - 貴族が力をもち、はなやかな生活をしていた。 - 大陸の影響に学びながら、日本の風土や生活にあった文化が生まれた。	- 足利氏が京都に新しい幕府を開いた。 - 足利義満が強い権力をもち、貿易で富をたくわえた。 - 産業が発達し、村やまちの人々が力をつけた。	- 徳川家康が全国を統一して江戸に幕府を開き、長く支配が続いた。 - 大都市に人やものが集まって、商人が力をつけた。 - 五街道や航路が発達した。 - 生産が高まり、農村でも暮らしに余裕をもつ人々が現れた。
中心となった人々	貴族	武士、貴族 まちや村の人々	町人
具体的な内容・作品	- 和歌 - 囲碁 - 大和絵 - 紫式部「源氏物語」 - 清少納言「枕草子」	- 書院造 - 水墨画 - 茶の湯 - 生け花 能、狂言	- 歌舞伎 - 人形浄瑠璃 - 浮世絵 - 相撲 - 花火

<解説>

○これまで、平安時代や室町時代等の文化についても学習してきているため、例えば、時代背景や中心となった人物、代表的な内容や作品を項目としてまとめて比較することで、その時代ごとの文化の特徴に気付きやすくなる。その際、キャッチコピーのように表現させることで、学習問題に対する自分なりの考えを表現する活動等が考えられる。

○単元全体を見通して、小單元ごとに表などにまとめてクラウド(Canva 等)に保存しておくことで、付け足しながら比較することができる。その際、年表と重ねてまとめることで、歴史の展開を考えた上で歴史を学ぶ意味を考え表現することを促すことができる。

③整理したことについて、友達と考えを交流する。



江戸時代の文化の特徴をキャッチフレーズで表してみましょう。

「江戸の文化は町人が主役！」というキャッチフレーズを考えました。なぜなら、町人が中心となって・・・



わたしは「みんなが学び楽しむ江戸文化」にしました。理由は・・・



<解説>

- 表や年表にまとめたことを友だちと交流させることにより、歴史を学ぶ意味についての多様な考えに触れさせ、深い学びを促すことができる。
- 社会的事象の見方・考え方を働かせながら考えたことを表現できるよう、マイテーマを設定してまとめる等、多角的な思考や理解ができるようにするとよい。

Ⅲ 中・中等教育学校 第1学年

Ⅰ 調査問題【出題の趣旨】

世界と日本の地域構成 世界各地の人々の生活と環境	1	本問題の(1)～(7)は、中学校学習指導要領に示された地理的分野の「A 世界と日本の地域構成」の学習状況を調査するものである。位置や分布などに着目して、世界の地域構成及び日本の地域構成を大観し理解しているか、世界の地域構成の特色を多面的・多角的に考察することができるかを調査するために出題した。新設の(1)以外は、過去の出題と同一または類似の問題である。 なかでも、本問題の(5)は、デジタルの優位性を生かし、動画で地球全体を捉えさせ、本市の生徒が地球儀を活用して地球上の位置関係を判断できるかを調査するもので、定着の状況をみるために令和5年度と同一のものを第2学年と共通で出題した。 また、本問題の(8)は、中学校学習指導要領に示された地理的分野の「B 世界と日本の地域構成(1) 世界各地の人々の生活と環境」の学習状況を調査するものである。世界の主な宗教の分布について理解しているかを調査するために出題した。
世界各地の人々の生活と環境	2	本問題は、中学校学習指導要領に示された地理的分野の「B 世界の様々な地域(1) 世界各地の人々の生活と環境」の学習状況を調査するものである。 場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、 ①人々の生活はその生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解しているか ②世界各地における人々の生活を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解しているか ③世界各地における人々の生活の特色の理由を多面的・多角的に考察することができるかを調査するために出題した。新設の(5)以外は、過去の出題と類似の問題である。 なかでも、本問題の(2)は、気候とそれに関係する住居の様子を表した資料から、その場所における生活の特色を捉え、自然的条件との関係について考察することができるかを調査するもので、定着の状況をみるために第2学年と共通で出題した。
歴史との対話 古代までの日本	3	本問題の(1)～(3)は、中学校学習指導要領に示された歴史的分野の「A 歴史との対話」の学習状況を調査するものである。 時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、 ①年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解しているか ②資料から歴史に関わる情報を読み取るなどの技能を身に付けているか ③小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察することができるかを調査するために出題した。すべて過去の出題と同一または類似の問題で、定着の状況をみるために第2学年と共通で出題した。 なかでも、本問題の(3)は、年代の表し方を理解しており、資料から歴史に関わる情報を読み取ることができるかどうかを調査するもので、令和4年度と同一の問題である。 また、本問題の(4)～(6)は、中学校学習指導要領に示された歴史的分野の「B 近世までの日本とアジア(1) 古代までの日本」の学習状況を調査するものである。古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、 ①東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていたことを理解しているか ②東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解しているか ③国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解しているか ④古代の社会の変化の様子や時代の特色を多面的・多角的に考察することができるかを調査するために出題した。すべて過去の出題と類似の問題である。
古代までの日本	4	本問題は、中学校学習指導要領に示された歴史的分野の「B 近世までの日本とアジア(1) 古代までの日本」の学習状況を調査するものである。古代文明や宗教が起こった場所や環境、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、 ①世界の各地で文明が築かれたこと、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていたことを理解しているか ②東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解しているか ③国際的な要素をもった文化が栄えたことを理解しているか ④古代の社会の変化の様子や時代の特色を多面的・多角的に考察することができるかを調査するために出題した。新設の(2)(3)以外は、過去の出題と類似の問題である。 なかでも、本問題の(5)は、令和5年度の小学校第6学年で出題されたものの類似問題である。本市の生徒が中・中等教育学校での学習を経て、東アジアとの接触や交流に着目して、国際的な要素をもった文化が栄えたことへの理解を深めていることを、正答率の推移から確認するために出題した。

2 調査問題一覧表【設問別】（第1学年）

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の領域等					評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		世界と日本の地域構成	世界の様々な地域	日本の様々な地域	歴史との対話	近世までの日本とアジア	知識・技能	思考・判断・表現	態度主体的に学習に取り組む	選択式・短答式・短	正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名【学年】	正答率（％）	出題学年	正答率（％）
1	(1) ①② ※完答	世界の地域構成を大観し、二つの州にまたがる国があることを理解している。	○				○			選	65.5	0.0				
	(2) ①② ※完答	正距方位図法で描かれた地図を適切に読み取り、赤道の正しい位置を理解している。	○				○			選	44.4	0.2	R5市【中1】	60.5		
	(3) ①②③ ※完答	世界の地域構成を大観し、大陸と海洋の分布を理解している。	○				○			選	36.5	0.1	R5市【中1】	48.0		
	(4)	正距方位図法で描かれた地図を適切に読み取り、大陸の正しい位置を理解している。	○				○			選	43.9	0.1	R4市【中1】	39.1		
	(5)	地球儀で対蹠点を探し、緯度や経度の仕組みや性質について考察することができ。	○					○		選	72.7	0.1	◎R5市【中1】	77.1	中2	81.3
	(6) ①②③ ※完答	我が国と世界各地との位置関係に着目し、世界各地との時差について考察することができ。	○					○		選	28.6	0.3	R5市【中1】	53.6	中2	30.8
	(7) ①② ※完答	世界の地域構成を大観し、緯度や経度、主な国の位置を正しく理解している。	○				○			選	62.8	0.2	R5市【中1】	62.9		
	(8) ①② ※完答	宗教別人口の割合や、生活と宗教との関わりと関連付けながら、世界の主な宗教の分布の様子を正しく理解している。	○				○			選	71.0	0.2	R5市【中1】	54.3		
2	(1)	気候の分布を表した主題図を活用して、世界各地における人々の生活が営まれる場所の自然的条件を正しく理解している。	○				○			選	60.1	0.3	R5市【中1】	57.4		
	(2)	気候とそれに関係する住居から、その場所における生活の特色を捉え、自然的条件との関係について考察することができ。	○					○		選	84.5	0.2	R5市【中1】	81.5	中2	88.5
	(3)	気候とそれに関係する衣服から、その場所における生活の特色を捉え、自然的条件との関係について考察することができ。	○					○		選	86.1	0.3	H30市【中1】	63.0		
	(4)	気候とそれに関係する食事から、その場所における生活の特色を捉え、自然的条件との関係について考察することができ。	○					○		選	91.4	0.3	R5市【中1】	84.0		
	(5) ①② ※完答	人々の衣食住の特徴を通して、世界各地における生活の特色を捉え、自然的条件との関係について考察することができ。	○					○		選	62.2	0.3				
3	(1)	時代区分の意味や意義についての基本的な内容を正しく理解している。				○	○			選	87.2	0.2	R5市【中1】	69.5	中2	87.0
	(2)	小学校での学習を踏まえて、文化財と時代区分との関わりについて考察することができ。				○		○		選	71.6	0.3	R5市【中1】	51.0	中2	72.2
	(3)	年代の表し方を理解しており、資料から歴史に関わる情報を読み取ることができ。				○	○			選	42.4	0.4	◎R4市【中1】	45.5	中2	44.2
	(4)	日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰について理解している。				○	○			選	71.9	0.4	R5市【中1】	89.2		
	(5)	政治の変化に着目して、原始から古代にかけて日本の社会が変化した様子を考察することができ。				○	○			選	64.9	0.4	R5市【中1】	42.2		
	(6)	文化の特色に着目して、原始から古代にかけて日本の社会が変化した様子を考察することができ。				○	○			選	71.8	0.5	R5市【中1】	38.5		
4	(1) ①② ※完答	古代文明が起こった場所などに着目して、特徴を比較して考察できる。				○	○			選	58.6	0.5	R5市【中1】	55.2		
	(2) ①② ※完答	世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が興ったことを理解している。				○	○			選	16.1	0.7				
	(3)	古墳の大きさやその分布を基に、大和朝廷（大和政権）の勢力の広がりの様子を捉えることができている。				○	○			選	61.4	0.9				
	(4) ①② ※完答	聖徳太子の政治に関する資料を基に、律令国家の確立に至るまでの過程を理解している。				○	○			選	51.5	0.9	H27市【中2】	70.1		
	(5)	資料を活用して、遣唐使の派遣やユーラシア大陸における交易が日本の文化に与えた影響を考察することができ。				○	○			選	41.3	1.3	R5市【小6】	76.3		
	(6)	資料を活用して、各地方を国司に任せたという平安時代の政治の展開を考察することができ。				○	○			選	63.6	1.6	H29市【中1】	43.6		

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査 「全国」：全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【中・中等教育学校社会 第1学年】

設問番号		正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等
1	(1)	①…ア ②…イ (①、②両方できて正解)	地図1において、塗られた色と州区分の対応は次の通りです。 赤…アジア州、紫…ヨーロッパ州、黄緑…アフリカ州、緑…オセアニア州、青…北アメリカ州、黄…南アメリカ州 世界には州をまたがって位置している国もあり、出題したエジプトはアジア州とアフリカ州、インドネシアはアジア州とオセアニア州にまたがって位置していることが分かります。
	(2)	①…ア ②…エ (①、②両方できて正解)	赤道は、アフリカ大陸と南アメリカ大陸の真上を通っています。そして、北半球内にはユーラシア大陸と北アメリカ大陸が、南半球内にはオーストラリア大陸と南極大陸がおよそまわっています。それぞれの大陸の地球上の位置を正しく理解しておきましょう。
	(3)	①…エ ②…ウ ③…ウ (①、②、③全部できて正解)	地図3のような緯線と経線が直角に交わるように表された地図では、赤道からはなれるほど、実際の面積より大きく示されます。このため、世界最大の大陸であるユーラシア大陸より、南極大陸の方が大きく示されることに注意しましょう。また、大陸と海洋の位置関係では、ユーラシア大陸とオーストラリア大陸、北アメリカ大陸と南アメリカ大陸、南極大陸の間に太平洋が、ユーラシア大陸とアフリカ大陸、北アメリカ大陸と南アメリカ大陸、南極大陸の間に大西洋が、ユーラシア大陸とアフリカ大陸、オーストラリア大陸と南極大陸の間にインド洋が位置しています。インド洋に面していないのは、北アメリカ大陸と南アメリカ大陸と西極となります。
	(4)	ウ	中心からの距離と方位が正しい地図では、中心から上の方向が北、右の方向が東、下の方向が南、左の方向が西の方角を示します。地図4を活用して「さいたま市から東へまっすぐ進むとはじめに通る大陸」を探すとすると、「中心から右の方向にまっすぐ進むとはじめに通る大陸」がこれにあたります。この種類の地図は中心からはなれるほど、陸地の形がゆがんで表されるのを見にくいですが、南アメリカ大陸であることが読み取れます。
	(5)	ウ	ある地点から地球の中心に引いた線をのばして、地球上の正反対にあたった地点を対蹠点(たいせきてん)といいます。例えば、北緯36度、東経140度(東京のおおよその位置)の対蹠点は南緯36度、西経40度で、南アメリカ州のウルグアイ沖の大西洋上になります。図1は南アメリカ大陸の北部、赤道直下(緯度0度)で西経60度付近の位置を中心として映っていますので、その対蹠点は同じく赤道直下(緯度0度)、東経120度付近の位置となり、これを中心として映しているウが正答ということになります。
	(6)	①…イ ②…ウ ③…イ (①、②、③全部できて正解)	地球は西から東へ24時間で1回転して360度自転するので、日本の標準時子午線が位置する東経135度から経度が180度はなれたところに位置する西経45度は、日本と12時間の時差がある地点になります。同様に考えると、東経135度から経度が270度離れたところに位置する西経135度が、日本と18時間の時差がある地点になります。日本と17時間の時差がある地点は、この西経45度西経135度の間に位置することになり、経度と方位を合わせて考えると、Bの地点がこれにあたります。
	(7)	①…ウ ②…イ (①、②両方できて正解)	地球上の国や都市などの位置は、緯度と経度を使って表すことができます。緯度は、赤道から南北にどれだけはなれているかを表したものです。赤道を0度、北極点と南極点を90度として、地球を南北にそれぞれ90度に分けています。赤道より北の緯度を北緯、赤道より南の緯度を南緯として表しますので、①の正答はウとなります。また、経度は、北極点と南極点をと地球の表面を通して結んだ線のうち、イギリスのロンドンにある旧グリニッジ天文台を通る本初子午線を基準として経度0度で表します。本初子午線より東の経度は東経、西の経度は西経で表され、地球を東西にそれぞれ180度に分けていますので、②の正答はイとなります。
	(8)	①…ウ ②…イ (①、②両方できて正解)	三大宗教のうち、キリスト教は4世紀末にローマ帝国が国の宗教に定めたこともあってヨーロッパで広く信仰されるようになり、後にアメリカやアジア、アフリカにも伝えられました。図2と地図7のAにあたります。また、イスラム教は、聖地のメッカがあるアラビア半島から、西アジアや北アフリカ、東南アジアにも広まりました。図2と地図7のBにあたります。そして、仏教はインドから東南アジアや中国、日本にも伝えられ、それぞれ地域で独自の発達をとげました。図2と地図7のDにあたります。なお、インドの80%以上の人が信仰しているヒンドゥー教は宗教別人口で仏教を上回っており、図2と地図7のCにあたります。
2	(1)	ア	アとエの雨温図は、7月の月平均気温が年間を通して最も低いことから南半球にある場所のものだと考えられます。アは、年間を通して涼しく、降水量も少ないという高山気候の特色を示していることから、クスコのものだと分かります。エは、年間を通して気温が高く、降水量も多いことから熱帯にあるアビアのものだと分かります。イとウの雨温図は、7月の月平均気温が年間を通して最も高いことから北半球にある場所のものだと分かります。イは、夏にかけて暑くなり、冬の平均気温が10℃前後であることから温帯にあることが分かります。夏は雨が少なく乾燥しているという地中海性気候の特色を示していることから、ローマのものだと考えられます。ウは、4つの雨温図の中で最も年平均気温が低く、月平均気温が最も高くても10℃に達しないことから寒帯にあるイカルイトのものだと分かります。
	(2)	イ	アビアが属する熱帯雨林気候は年間を通して気温が高く、降水量も多いという特色があります。そのため家屋には、壁がないことや高床にすることで風通しをよくするといった、涼しく過ごせる工夫がなされています。また、屋根の傾斜で雨がすぐに流れるようになっており、多雨に対応できるようになっています。家のつくりから、その地域の気候の見当がつけられます。
	(3)	エ	イカルイトの位置を地図1で確認すると、北極に近いこと(高緯度であること)が分かります。このことから選択肢のイとエにしばられます。北極に近いイカルイトは、寒帯のツンドラ気候で一年中気温が低く、月平均気温が最も高い7月でも10℃に達しないことから、寒さに対応した暖を取るための服装をしていると考えられます。
	(4)	イ	アのバナナやココヤシは、一年中暑いという熱帯での栽培に適した作物です。ウのじゃがいもは、高山気候の地域に暮らす人々の主食で、昼夜の気温差を利用して乾燥させた保存食が作られています。エのひえやもちしは、乾燥帯において雨の降る時期に育てられ、もちのようにしたり、おやつにしたりして食べられています。これらの作物は、ローマに暮らす人々の食事のイラストから読み取れません。イのぶどうやオリーブは、夏に暑く乾燥したローマの気候を利用して栽培されています。イラストには、ぶどうを原料としたワインや、オリーブが具材の1つとして使われたピザが描かれており、その奥のオイルはオリーブの実からしぼったものだと考えられます。
	(5)	①…ア ②…エ (①、②両方できて正解)	気候の違いは緯度の違いが関係しており、赤道に近い低緯度の地域は一年中暑い(北極や南極に近い高緯度の地域は一年中寒い)ことから、①はアが正答となります。なぜ緯度のちがいが気温の変化を生じさせるのか、確認しておきましょう。また、大問2(1)からは、地球上の緯度や月別や年間の平均気温、降水量が異なること、大問2(2)～(4)からは、それぞれの地域の気候に応じた衣食住が展開されていることが分かります。このように、それぞれの地域では快適に暮らす工夫が昔からなされてきたことから、②はエが正答となります。
3	(1)	イ	日本の歴史の時代区分は古い順に、縄文→弥生→古墳→飛鳥(略年表中の①)→奈良→平安→鎌倉(略年表中の②)→室町→安土桃山(略年表中の③)→江戸→明治→大正(略年表中の④)→昭和→平成(→令和)となります。これらの区分は、文化の特色や政治の中心地を基にしたものです。時代区分の意味や意義を理解し、歴史学習を進めるにあたって活用しましょう。
	(2)	ウ	日本の歴史の時代区分において、縄文時代から平安時代、鎌倉時代にかけてを古代、平安時代、鎌倉時代から室町時代、安土桃山時代にかけてを中世、室町時代、安土桃山時代から江戸時代にかけてを近世と区分する考え方もあります。資料1の「日光東照宮」は徳川家光が江戸時代に造ったものです。資料2の「法隆寺」は、聖徳太子(厩戸皇子)が飛鳥時代に建てたとされるものです。資料3の「鹿苑寺の金閣」は、足利義満が別荘として室町時代に造った建物です。よって、時代区分と資料の組み合わせとして正しいものはウとなります。
	(3)	エ	西暦は、キリストが生まれたと考えられた年を「紀元1年(元年)」とします。そして、紀元1年から100年までを「1世紀」と表します。1894年を世紀で表すと、「19世紀の終わり」となります。また、歴史上の出来事は、ひとりで起こるわけではなく、背景や原因になった出来事や、影響を受けた出来事があります。「日清戦争は、日本の政治や国民の生活にどのような影響を与えたのだろうか」という学習課題を解決したい場合には、日清戦争より後の時期をくわしく調べ、出来事の「相互の関連」を考えることで、歴史をより深く考えることができます。
	(4)	エ	2つの資料を比べると、資料4にはない、櫓やぼり、物見やぐらが資料5のむらには造られていることがわかります。集団で行う稲作が盛んになると、むらの人々を従える有力者や、いくつかのむらをまとめる王が現れ、小さな国々ができてきました。吉野ヶ里遺跡では、首のない遺骨も発見されており、むらどうしの戦いによって死んだ人の骨だとみられています。これらのことから、このころには、むらどうしの戦いが起こるようになっていたと考えられます。
	(5)	ア	カードAの聖武天皇は、仏教の力により伝染病や災害などの不安から国家を守ろうと考え、当時の都である平城京に東大寺を建てて金銅の大仏を造らせた奈良時代の人物です。カードBの卑弥呼は、中国の歴史書「三国志」魏書に記述がみられる、邪馬台国の女王になって倭の30ほどの国々をまとめたといわれる弥生時代の人物です。カードCの藤原道長は、四人の娘を天皇のきさきとして、生まれた孫たちを次々と天皇にして、大きな力をにぎった平安時代の人物です。カードDの中大兄皇子は、645(大化元年)年に中臣鎌足とともに蘇我蝦夷・入鹿の親子をほろぼした飛鳥時代の人物です。よって、正答はアとなります。
	(6)	ウ	資料6の「東大寺の大仏」は、聖武天皇が奈良時代に造らせたものです。資料7の「法隆寺釈迦三尊像」は、飛鳥文化の代表とされるものです。資料8の「平等院鳳凰堂」は、藤原頼通が平安時代に造らせた、極楽浄土の姿を表したとされる建物です。資料9の「埴輪」は、石がしきめられた古墳の表面に並べられていたと考えられており、人の形をしたもの他に家の形や馬の形など、さまざまな形のものがありました。よって、正答はウとなります。
4	(1)	①…ウ ②…エ (①、②両方できて正解)	資料1から、四大文明が発達した場所に着目して比べると、いずれも大河のほとりであること、北緯30度前後の中緯度の地域であることが分かります。また、それぞれの場所ですでさま道具などが発明されましたが、エジプト文明では太陽を基準に1年を365日として12か月に分けられる暦(こよみ、時間の流れをある単位で区切ったもの)が、メソポタミア文明では月の満ち欠けに基づく暦が作られました。それぞれ太陽暦、太陽暦と呼ばれています。
	(2)	①…ア ②…エ (①、②両方できて正解)	1世紀のヨーロッパでは、アの「ローマ帝国が成立するとともに、イエスがうまれ、人はみな罪を負っているが神の愛を受けられることなどの教義をとなえた」と考えられます。また、カードBに書かれた、「奴国の王」が使いを送った相手である当時の中国は漢です。1世紀のアジアでは、エの「秦に卡わって漢が中国を統一し、朝鮮半島に楽浪郡などを設け、中央アジアも支配下に入れて大帝國となった」と考えられます。
	(3)	エ	資料2の3世紀における分布図をみると、稲荷山古墳と同じ形をした古墳(前方後円墳)は近畿地方を中心に、四国地方と九州地方の北部に分布していることがわかります。5世紀における分布図では、北は東北地方、南は九州地方の全域に広がっています。鉄剣や鉄刀の出土とあわせると、5世紀後半には、大和政権の王が九州地方から東北地方南部までの有力豪族を従えていたと考えられています。
	(4)	①…イ ②…ア (①、②両方できて正解)	資料3に「詔(天皇の命令)をうけたまわりては必ずつつしめ(守りなさい)」とあり、役人の心構えを示すことで天皇を中心とする政治の仕組みを作ろうとしたと考えられます。資料4をみると、聖徳太子は推古天皇のおい(兄弟姉妹の息子)にあたり、親族であることが分かります。
	(5)	エ	唐は、遠く西アジアやインドとの交流がさかんだったため、その影響を受けた奈良時代の文化(天平文化)も国際色豊かなものとなりました。東大寺の正倉院宝物の中には、掲載したイラストの品のような、西アジアやインドから唐にもたらされ、それを遣唐使が持ち帰ったとみられるものが数多くあります。
	(6)	ア	資料5から、朝廷は国司に各地方の政治を任せ、国司は農民に田畑の耕作を請け負わせたことと、農民は国司が決めた量の米や特産物を税として納め、国司は朝廷が決めた量の米や特産物を税として納めたことが読み取れます。資料6からは、尾張国の国司であった藤原元命によって「不法な税の取り立て」として「定まった税のほか、この3年間で、さらに12万9374束あまを取り立てたこと」が書かれています。これらのことから、農民から取り立てた税のうち、一部を朝廷に納め、残りは自らの収入にする国司がいたことがわかります。そして、「不法な税の取り立て」によって、朝廷の行事や寺社の修繕の際に納めた費用以上の収入を得られたことや、費用を納めた見返りに国司にならうとするものがいたことが考えられます。

4 特徴的な問題と解説

中・中等教育学校第1学年 社会 歴史的分野「古代までの日本」

【特徴的な問題】

4

- (5) カードEの平城京は、当時の中国の都にならってつくられました。あかりさんは、平城京が都とされた時期の日本と外国とのつながりについて次のようにまとめました。

次の図は、平城京が都とされた時期のユーラシア大陸における交易路の例です。



次の宝物は、日本に伝えられ、東大寺の正倉院におさめられているガラス細工です。



これらの宝物の産地から、 ことが分かります。
これらの宝物を持ち帰った使節は、平安時代に菅原道真の意見で中止が決定されるまで、十数回にわたり派遣されました。

【出題の趣旨】

本問題は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）」に示された社会科歴史的分野の「2 内容 B 近世までの日本とアジア (1) 古代までの日本」において、遣唐使の派遣やユーラシア大陸における交易といった東アジアの動きが文化に与えた影響を考察して、奈良時代の日本において国際的な文化が栄えたことを理解しているかどうかを調査するために出題した。

なお、本問題は令和5年度の小学校第6学年における出題の類似問題である。本市の生徒が中・中等教育学校での学習によって理解を深めていることを、正答率の推移から確認するために出題した。

【指導のポイント】

○調査や諸資料から歴史に関わる事象についての様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習を重視する。

歴史的分野の学習を進める上では、調査や諸資料の活用などを通して情報を効果的に収集し、読み取り、まとめるなどの技能を身に付けることが必要となる。

このような技能を身に付けさせるにあたり、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目することで、情報を効果的に収集できることに気付かせたい。

【学びの知恵袋（授業アイディア例）】では、市立小学校で使用した教科書に掲載されていた年表や市立中学校で使用している教科書の巻末の年表を取り上げており、時期や年代に着目させて情報を効果的に収集したり、どのような表現上の工夫がされているのかを確認したりすることで、学習効果を高めることをねらいとした学習指導の場面を示している。

また、本時や単元のまとめの活動として、年表を自ら作成する場面を設定することも考えられる。

【学びの知恵袋（授業アイディア例）】では、文章化された「本時のまとめ」を年表の形で表すとともに、導入で確認した教科書巻末の年表になされていた出来事をつなぐ矢印といった表現上の工夫を取り入れることで、学習効果を高めることをねらいとした学習指導の場面を示している。

【学びの知恵袋(授業アイデア例)】

①前時までの学習内容や、小学校での学習内容を確認する。



教師

これまでの授業で、大宝律令が完成してほどなく、日本は唐に遣唐使を送って唐との関係を修復し、その後も遣唐使を通じて、唐の制度や文化を取り入れたことを学習しましたね。遣唐使について、小学校ではどのようなことを学習しましたか？

7世紀から9世紀にかけて、日本から中国（唐）を目指して、くり返し送られた使節団です。遣唐使が持ち帰ったものは、日本の国づくりに生かされました。



生徒

小学校の時に使用していた教科書には、このような年表がありました。



生徒

年表「遣唐使の派遣」(年表中の年代は西暦で表示)

回数	出発年	帰国年	船の数	その他の記録
1	630	632		
2	653	654	2	1 せきは遭難 死者 115 人
3	654	655	2	
4	659	661	2	1 せきは南の島に漂着
5	665	667		
6	667	668		
7	669	不明		
8	702	704～ 718	4	
9	717	718	4	557 人で渡航
10	733	734～ 739	4	約 600 人で渡航 1 せきは行方不明
11	746			中止
12	752	753～ 754	4	約 450 人で渡航 1 せきは遭難
13	759	761	1	
14	761			船がこわれたため中止
15	762			天候の関係で中止
16	777	778	4	1 せきは遭難
17	779	781	2	
18	804	805～ 806	4	1 せきは遭難
19	838	839～ 840	4	約 650 人で渡航 1 せきは遭難
20	894			大使である菅原道真の意見で、遣唐使が廃止される

(教育出版『小学社会6』平成 31 年版、p.91 より作成)



この年表には、どのようなことが書かれているのでしょうか。まず、見出しにはどのような項目がありますか？

「回数」「出発年」「帰国年」「船の数」「その他の記録」という項目になっています。西暦 630 年に第 1 回が派遣され、894 年に菅原道真の意見で第 20 回の派遣が停止されて終わったようです。



「帰国年」や「船の数」が分からない回もあるし、「その他の記録」によると、多いときには 600 人を超える人たちが、4 隻の船に乗っていったようだね。

行方不明になってしまったり、遭難してしまったりした記録がいくつもあるのが、気になるね。



それでは、時期や年代に着目すると、どのようなことが読み取れるのでしょうか。

★学習指導上の留意点

年表は時期や年代、出来事や変化・推移などを捉えることができる資料であることを留意し、各項目などに着目させて情報を正確に読み取れるよう指導する。

第 1 回が 630 年、派遣が停止された第 20 回が 894 年なので、「飛鳥時代に始まって平安時代まで続いた」ということができます。「7 世紀の前半に始まり、9 世紀末まで続いた」という言い方もできます。



間隔に注目すると、第 2 回と第 3 回や、第 14 回と第 15 回のように 2 年連続で派遣されるような時期もあれば、第 7 回と第 8 回や、第 18 回と第 19 回のように 30 年以上派遣されない時期もあるね。なぜだろう？

長いこと派遣が止まってしまう、原因や背景が何かあるんじゃないかな。



教科書の巻末にも年表が掲載されています。これも参考にすると、どのようなことが考えられそうですか？

教科書の巻末の年表には、世界の出来事も書かれています。出来事の中には赤い■がつけられているものもあって、その出来事から、矢印が朝鮮や中国、欧米に伸びていたり、日本に向かってきていたり、お互いの方向を指していたりしています。





矢印はどのようなことを意味していると考えられますか？矢印の種類を比べてみると、どのようなことが言えそうですか？

矢印は、①日本から朝鮮や中国、欧米に伸びているもの、②朝鮮や中国、欧米から日本に向かって伸びているもの、③双方向を指しているもの、の3種類あります。3つを比べると、①は日本から外国への関わり、②は外国から日本に対しての動きや影響、③は双方の間に関係があったことを表していると思います。



遣唐使の派遣に関するものとしては、630年の「第一回遣唐使を送る」と894年の「遣唐使が停止される」に赤い■がつけられています。その2か所から中国の欄に矢印が伸びているので、日本から外国への関わりを示していると言えます。



年表中の「世界の主な出来事」などと関連付けると、遣唐使について、さらにどのようなことが分かりますか。

★学習指導上の留意点

「日本の主な出来事」と「世界の主な出来事」の両方が掲載されている年表については、2つを関連付けることを意識させる。特に、学習指導要領上の大項目「近世までの日本とアジア」においては、アジアを中心とした世界との関わりの中で理解することが重要である。

618年に「隋がほろび、唐が中国を統一する」とあるので、その後の630年になって「第一回遣唐使を送る」となることがよく分かります。



907年に「唐がほろびる」とあるから、894年に「遣唐使が停止される」のは、その時点で唐がほろびそうだったのかもしれないね。

676年に「新羅が朝鮮半島を統一する」ので、669年の第7回と702年の第8回の間隔が空いていることと関係がありそうです。そうすると、7世紀のところに書かれている「イスラム帝国が急速に拡大する」も遣唐使の派遣に何か関係があるのかもしれないね。



出来事の原因や背景はその出来事よりも前に、出来事の結果や影響はその出来事よりも後に書かれているので、年表から、ある出来事の原因や結果、影響や関連性を見付けることができそうですね。

★学習指導上の留意点

原因や背景、結果や影響といった、「相互の関連」という歴史的な見方・考え方を働かせて年表を見ることができるよう指導する。



それでは、今日の学習では、奈良時代の日本の文化に着目しながら、「遣唐使の派遣」を中心とした唐との関わりが日本にどのような影響を与えたのか調べてみましょう。また、「遣唐使の派遣」が外国との関わりであることに留意して、中国などアジアを中心とした世界との関わりの中で捉えてみましょう。

②生徒の興味・関心を「本時の問い(学習課題)」として整理し、学習計画を立てさせる。

本時の問い

唐との関わりは、奈良時代の日本の文化にどのような影響を与えたのだろうか。



「本時の問い」について、仮説を立てましょう。また、その仮説を検証するために、どのように調べるのか、調べたことや考えたことをどのようにまとめて発表するのか、計画を立てましょう。

それまでに見られなかったもの、つまり飛鳥時代の文化に無いものが奈良時代の文化として生み出され、残されていると考えます。そこで、飛鳥時代の文化と比べながら、奈良時代の文化にはどのようなものがあるのか、それが唐との関わりの影響を受けているのか、教科書と資料集を使って調べたいと思います。これまでに飛鳥時代の文化について、Microsoft PowerPoint でスライドにしてまとめ、Teams にアップロードしているので、前の班の人たちとこれを共同編集しながら、2つの時代の文化を比べていきます。



飛鳥時代の文化の代表例として法隆寺釈迦三尊像を学習したので、仏像に着目してみます。小学校での学習を思い出すと、奈良時代の文化の例といえば東大寺の大仏なので、唐との関わりは東大寺の大仏にも影響していると予想します。東大寺の Web ページをタブレットで調べてみる予定です。このころには中国(唐)から鑑真を日本に招いたとも学習したので、彼が日本で開いた唐招提寺の Web ページも調べて、2つを比べてみます。今の班の中で分担して調べて、「ミライシード」の「オクリンクプラス」でまとめていきたいと思います。



どのように調べるか、どのようにまとめるか、計画を立てることができましたね。それでは、自分たちで決めた調べ方やまとめ方で、調査してまとめましょう。

③適宜、生徒の学習活動に指導助言を行う。

★学習指導上の留意点

調査にあたっては、どのような資料や方法を用いるか、生徒自身が選択できるとよい。また、調査内容は Microsoft Word、Excel や PowerPoint の共同編集を通じてクラウド上でまとめたり、「ミライシード」や Microsoft Teams のチャット及び Forms を通じて集約したりするなど、ICT を活用して共有できるとよい(学びのポイント「じ・し・や・く」の「じぶんできめる」及び「クラウドでつなぐ」)。



このグループは、飛鳥時代の文化と比べながら、奈良時代の文化について調べ、Microsoft PowerPoint でスライドにしてまとめるグループでしたね。調べてみて、どのようなことが分かりましたか？

教科書や資料集によると、東大寺の正倉院宝物の中には、西アジアなどから唐にもたらされ、それを遣唐使が持ち帰ったとみられるものが数多くあるそうです。また、現在の奈良の寺院に残されている建築・仏像・絵画の多くにも、遣唐使の影響を受けた国際色豊かな特徴が見られるとのこと。国際的な交流が盛んになったことで、日本の国のおこりや、天皇が国を治めることの由来を説明しようとする動きが起こり、「古事記」や「日本書紀」、「風土記」が作られるとともに、和歌も盛んになって「万葉集」がまとめられたようです。



「西アジアなどから唐にもたらされ、それを遣唐使が持ち帰ったとみられる」と言えるのは、なぜなのでしょう？

右の図の宝物のように、ペルシャ付近で作られたガラスに、中国で銀のあしをつけたものと考えられるものがあります。下の資料から読み取れるように、当時の唐は、西アジアなどとの交流が盛んだったようです。



正倉院宝物が、どこで作られたと考えられるかに着目することで、唐と西アジアなどとの交流及び遣唐使の影響が見られることが分かりますね。

飛鳥時代の特徴的な文化の例であった、法隆寺の釈迦三尊像や広隆寺の弥勒菩薩像は、中国や韓国の仏像の影響が見られました。このような点も比べながら、まとめていきたいと思います。



このグループは、東大寺の Web ページと唐招提寺の Web ページを基に調べ、2つの寺を比べながら「ミライシード」の「オクリンクプラス」で内容をまとめるグループでした。調べてみて、どのようなことが分かりましたか？

それぞれの Web ページによると、東大寺は、大和国の国分寺として建立されたものだそうです。また、唐招提寺は、唐から招かれた鑑真が戒律を学ぶ人たちのための道場として開いたものだそうです。



「国分寺」「戒律」とはそれぞれ何でしょうか。

教科書によると「国分寺」とは、聖武天皇と光明皇后が唐の皇帝にならって仏教の力によって国家を守ろうと考え、国ごとに建てた寺です。教科書には載っていませんでしたが、辞書によると「戒律」とは、仏教における修行のきまりごとのようです。こうしてみると、東大寺も唐招提寺も両方とも、唐との関わりによって建てられることになった寺であるということが言えそうです。



Web ページに載っていた説明をただ引用するのではなく、用語を併せて調べていくことは、習慣にできるといいですね。それでは、皆さんの学習内容をクラスで共有していきましょう。

④生徒の学習内容をクラス全体で共有する。



画面共有しながら話したいので、Teams の会議に入って画面を見ながら聞いてください。私たちは、…。

遣唐使の派遣は、西アジアやインドとの交流が盛んだった唐の文化を日本へ伝え、当時の日本の文化に影響を与えたことがよく分かりました。国際的な交流が盛んになったことをきっかけとして、「古事記」などが作られたことに驚きました。飛鳥時代の日本の文化は日本で最初の仏教文化でしたが、奈良時代の日本の文化は、唐の影響を強く受けた国際色豊かな仏教文化という特色をもつといえそうですね。唐が外国との交流が盛んだったのはなぜなのでしょう？





唐がどのような外交政策を行っていたのか、調べてみます。隋の時代とのちがいがあられるかもしれません。また、教科書の巻末の年表にあった、7世紀の「イスラム帝国が急速に拡大する」も関係しているかもしれないので、併せて調べます。

7世紀の「イスラム帝国が急速に拡大する」は、高等学校で「世界史」として学習することになります。これからの学習につながる、質疑応答になりましたね。



続いて、「オクリンクプラス」を見てください。このグループでは、…。

聖武天皇と光明皇后が、唐の皇帝にならって仏教の力によって国家を守ろうと考え、国ごとに国分寺と国分尼寺を建て、平城京には東大寺を建てて金銅の大仏を造らせたこと、唐で尊敬を集めていた僧の鑑真が、日本側の願いに応じて来日し、日本に正式な仏教の教えを伝え、唐招提寺は、そのために開かれた寺院であることがよく分かりました。両方とも唐との関わりによって建てられることになった寺であると言えるので、これも影響の1つと考えられますね。他にも、唐との関わりによって奈良時代に建てられた寺院はあるのですか？



教科書には、東大寺や唐招提寺と並んで興福寺が紹介されているので、調べてみます。また、飛鳥時代とのちがいに着目することも大事だと思ったので、法隆寺とも比べてみます。

法隆寺については、私たちのグループが飛鳥時代の学習のときに作ったスライドがあるので、ぜひ活用してね。



⑤各生徒が本時の学習内容をまとめ、振り返る。



素晴らしい発表と、質疑応答ができましたね。それでは、クラスメイトが発表した内容なども含めて、本日の学習をまとめてみましょう。

文章にまとめたものを、Teams のチャットに投稿しました。



本時のまとめ

遣唐使の派遣は、西アジアやインドとの交流が盛んだった唐の文化を日本へ伝え、当時の日本の文化に影響を与えた。例えば、東大寺の正倉院宝物の中には、西アジアやインドから唐にもたらされ、それを遣唐使が持ち帰ったとみられるものが数多くある。

また、聖武天皇と光明皇后は、唐の皇帝にならって仏教の力によって国家を守ろうと考え、国ごとに国分寺と国分尼寺を建て、平城京には東大寺を建てて金銅の大仏を造らせた。

そして、唐で尊敬を集めていた僧の鑑真が、日本側の願いに応じて来日し、日本に正式な仏教の教えを伝えた。唐招提寺は、そのために開かれた寺院である。

飛鳥時代の日本の文化は日本で最初の仏教文化であったが、奈良時代の日本の文化は、唐の影響を強く受けた国際色豊かな仏教文化という特色をもつようになったと言える。



調べたことや、まとめた文章を年表の形にまとめると、どのようになりますか？出来事の原因や背景、結果や影響と考えられる「世界の主な出来事」も年表に書き、それらの「相互の関連」を矢印で表すと、関係性も明らかにできます。

★学習指導上の留意点

出来事や変化・推移を、時期や年代と併せて表記する年表の形式でまとめさせ、大きな流れを捉えやすくさせる。また、「日本の主な出来事」だけでなく「世界の主な出来事」を併記させることで、同時代性や歴史に見られる国際関係を理解させやすくする。

調べたことと「世界の主な出来事」を年表の形にまとめ、「相互の関連」を矢印で表してみました。「ミライシード」の「オクリンクプラス」で共有します。



年代	世界の主な出来事	年代	日本の主な出来事
618	隋がほろび、唐が中国を統一する		
	イスラム帝国が急速に拡大する	630	第1回遣唐使を送る
	西アジアやインドとの交流が盛んになり、唐の文化が全盛になる	710	唐の長安にならった平城京が奈良に造られる
		741	唐の皇帝にならい、国ごとに国分寺と国分尼寺を建て、都には東大寺を建てて大仏を造らせる
742	鑑真が初めて日本への渡航を試みる	742	鑑真に来日を要請する
		753	鑑真が来日し、日本に正式な仏教の教えを伝える
		759	唐招提寺が開かれる

西アジアやインドの産物を、遣唐使が唐から持ち帰る



遣唐使の派遣が当時の日本の文化などにどのような影響を与えたのか、それによって当時の日本の文化はどのような特色をもつことになったのか、よくわかりますね。本日の学習を振り返って、気付いたことや新たに疑問に思ったことはありますか？

遣唐使の派遣が当時の日本の文化に影響を与えたことが分かったので、遣唐使を停止したことは、その後の日本に影響があったのかどうか、気になりました。



遣唐使の停止の影響の有無は、奈良時代の文化と平安時代の文化のちがいにも関係しているかもしれないので、2つの文化を比べてみたいと思いました。



皆さんの新たな問いを、これからの学習につなげていきましょう。

IV 中・中等教育学校 第2学年

I 調査問題【出題の趣旨】

世界と日本の地域構成 世界各地の人々の生活と環境	1	本問題は、令和5年度の中学校第1学年で出題した、中学校学習指導要領に示された地理的分野の「A 世界と日本の地域構成」及び「B 世界の様々な地域（1）世界各地の人々の生活と環境」の学習状況を調査するものの類似問題である。課題の改善状況の把握・分析や経年による比較・分析を行うために出題した。なお、今年度は、経年変化を見るため、中学校第1学年と同一の問題とした。 なかでも、本問題の（1）は、デジタルの優位性を生かし、動画で地球全体を捉えさせ、本市の生徒が地球儀を活用して地球上の位置関係を判断できるかを調査するものである。
世界の諸地域	2	本問題は、中学校学習指導要領に示された地理的分野の「B 世界の様々な地域（2）世界の諸地域」の学習状況を調査するものである。空間的相互依存作用や地域などに着目して、 ①世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解しているか ②世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を理解しているか ③地域で見られる地球的課題の要因や影響を、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察することができるか を調査するために出題した。すべて過去の出題と類似の問題である。
日本の地域的特色と地域区分	3	本問題は、中学校学習指導要領に示された地理的分野の「C 日本の様々な地域（2）日本の地域的特色と地域区分」の学習状況を調査するものである。分布や地域などに着目して、日本の自然環境、人口、資源・エネルギー、国内各地の結び付きや日本と世界との結び付き、我が国の国土の特色を理解しているかを調査するために出題した。新設の（2）以外は、過去の出題と同一または類似の問題である。 なかでも、本問題の（1）は、少子高齢化の課題を表した資料を基に、日本の人口に関する特色を理解しているかを調査するもので、令和5年度と同一の問題である。 また、本問題の（5）は、資料から、日本は環太平洋造山帯に属して、地震や火山の多い不安定な大地上に位置していることを読み取ることができるかを調査するもので、令和5年度と同一の問題である。
歴史との対話	4	本問題は、令和5年度の中学校第1学年で出題した、中学校学習指導要領に示された歴史的分野の「A 歴史との対話」の学習状況を調査するものの類似問題である。課題の改善状況の把握・分析や経年による比較・分析を行うために出題した。なお、今年度は、経年変化を見るため、中学校第1学年と同一の問題とした。
近世までの日本とアジア	5	本問題は、中学校学習指導要領に示された歴史的分野の「B 近世までの日本とアジア」の学習状況を調査するものである。武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流などに着目して、 ①武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、及び元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解しているか ②武家政治の展開が見られたことを理解しているか ③近世社会の基礎がつけられたことを理解しているか ④中世から近世にかけての社会の変化の様子や時代の特色を多面的・多角的に考察することができるか を調査するために出題した。すべて過去の出題と類似の問題である。
	6	本問題は、中学校学習指導要領に示された歴史的分野の「B 近世までの日本とアジア」の学習状況を調査するものである。交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、 ①東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解しているか ②民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解しているか ③近世社会の基礎がつけられたことを理解しているか ④幕府と藩による支配が確立したことを理解しているか、 ⑤中世から近世にかけての社会の変化の様子や時代の特色を多面的・多角的に考察することができるか を調査するために出題した。新設の（1）（5）以外は、過去の出題と類似の問題である。

2 調査問題一覧表【設問別】(第2学年)

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の領域等					評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		世界と日本の地域構成	世界の様々な地域	日本の様々な地域	歴史との対話	近世までの日本とアジア	知識・技能	思考・判断・表現	態度主体的に学習に取り組む	選択式・短答式・選択式・短答式	正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年	正答率(%)
1	(1)	地球儀で対蹠点を探し、緯度や経度の仕組みや性質について考察することができる。	○					○		選	81.3	0.0	◎R5市【中1】	77.1	中1	72.7
	(2) ①②③ ※必答	日本と世界各地との位置関係に着目し、世界各地との時差について考察することができる。	○					○		選	30.8	0.2	R5市【中1】	53.6	中1	28.6
	(3)	気候とそれに関係する住居から、その場所における生活の特色を捉え、自然的条件との関係について考察することができる。		○				○		選	88.5	0.1	R5市【中1】	81.5	中1	84.5
2	(1)	複数の資料を基に、アジア州で見られる地球的課題を、地域的特色と関連付けて考察することができる。		○				○		選	71.4	0.1	H29市【中2】	80.0		
	(2)	複数の資料を基に、ヨーロッパ州で見られる地球的課題を、地域的特色と関連付けて考察することができる。		○				○		選	49.6	0.2	R5市【中2】	69.1		
	(3)	複数の資料を基に、アフリカ州で見られる地球的課題を、地域的特色と関連付けて考察することができる。		○				○		選	68.4	0.3	R4市【中2】	68.5		
	(4)	北アメリカ州で見られる地球的課題を、地域的特色と関連付けて考察するために、必要な社会的現象等に関する情報を収集することができる。		○			○			選	58.4	0.2	H29市【中2】	25.3		
3	(1)	少子高齢化の課題を表した資料を基に、日本の人口に関する特色を理解している。		○			○			選	81.6	0.2	◎R5市【中2】	82.7		
	(2)	日本と世界との人の往来を表した資料から、日本と世界との結び付きの特色を読み取ることができる。		○			○			選	80.0	0.3				
	(3)	国内の産業の動向を表した資料を基に、日本の産業に関する特色を理解している。		○			○			選	54.1	0.3	R5市【中2】	39.5		
	(4)①	日本の地形の特色を表した資料を基に、日本の自然環境に関する特色を理解している。		○			○			選	33.2	0.3	R5市【中2】	65.1		
	(4)②	日本の気候の特色を表した資料を基に、日本の自然環境に関する特色を理解している。		○			○			選	41.0	0.3	R5市【中2】	24.0		
	(5)	資料から、日本は環太平洋造山帯に属して、地震や火山の多い不安定な大地上に位置していることを読み取ることができる。		○			○			選	62.9	0.2	◎R5市【中2】	71.5		
	(6)	資料から、日本の資源・エネルギー利用の現状を読み取ることができる。		○			○			選	74.8	0.3	R5市【中2】	55.4		
4	(1)	時代区分の意味や意義についての基本的な内容を正しく理解している。			○		○			選	87.0	0.2	R5市【中1】	69.5	中1	87.2
	(2)	小学校での学習を踏まえて、文化財と時代区分との関わりについて考察することができる。			○			○		選	72.2	0.2	R5市【中1】	51.0	中1	71.6
	(3)	年代の表し方を理解しており、資料から歴史に関わる情報を読み取ることができる。			○		○			選	44.2	0.3	R5市【中1】	45.5	中1	42.4
5	(1)	東アジアにおける交流に着目して、中世から近世にかけて日本の社会が変化した様子を考察することができる。				○		○		選	56.6	0.3	R5市【中2】	58.4		
	(2)	武士の政治への進出と展開に着目して、中世から近世にかけて日本の社会が変化した様子を考察することができる。				○		○		選	48.1	0.6	R4市【中2】	27.0		
	(3)	文化の特色に着目して、中世から近世にかけて日本の社会が変化した様子を考察することができる。				○		○		選	60.1	0.5	R5市【中2】	47.9		
6	(1)	琉球の国際的な役割に関する資料を基に、中世の日本と東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。				○	○			選	39.6	0.6				
	(2)	畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立に関する資料を基に、民衆の成長を背景とした社会が生れたことを理解している。				○	○			選	59.3	1.0	H29市【中2】	40.5		
	(3)	豊臣による統一事業に関する資料を基に、近世社会の基礎がつけられたことを理解している。				○	○			選	61.9	1.2	H30市【中2】	40.0		
	(4)	江戸幕府の成立と大名統制に関する資料を基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。				○	○			選	65.3	1.3	H30市【中2】	62.4		
	(5)	近世の日本において、産業や交通が著しく発達したことを理解している。				○	○			選	40.1	1.8				

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査「全国」：全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【中・中等教育学校社会 第2学年】

設問番号		正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等
1	(1)	ウ	ある地点から地球の中心に引いた線をのばして、地球上の正反対にあたる地点を対蹠点(たいせきでん)といいます。例えば、北緯36度、東経140度(東京のおおよその位置)の対蹠点は南緯36度、西経40度で、南アメリカ州のウルグアイ沖の大西洋上になります。図1は南アメリカ大陸の北部、赤道直下(緯度0度)で西経60度付近の位置を中心として映っていますので、その対蹠点は同じく赤道直下(緯度0度)、東経120度付近の位置となり、これを中心として映している方が正答ということになります。
	(2)	①…イ ②…ウ ③…イ (①、②、③全部できて正解)	地球は西から東へ24時間で1回転して360度自転するので、日本の標準時子午線が位置する東経135度から経度が180度はなれたところに位置する西経45度は、日本と12時間の時差がある地点になります。同様に考えると、東経135度から経度が270度離れたところに位置する西経135度が、日本と18時間の時差がある地点になります。日本と17時間の時差がある地点は、この西経45度と西経135度の間に位置することになり、経度で表すと西経120度となります。地図1中では、Bの地点がこれにあたります。
	(3)	イ	アジアが属する熱帯雨林気候は年間を通して気温が高く、降水量も多いという特色があります。そのため家屋には、壁がないことや高床にすることで風通しをよくするといった、涼しく過ごせる工夫がなされています。また、屋根の傾斜で雨がすぐに流れるようになっており、多雨に対応できるようになっています。家のつくりから、その地域の気候の見当がつけられます。
2	(1)	イ	資料1から、沿岸部に一人あたりの地域別総生産が高い地域が広がり、内陸部から多くの人々が移動して都市化が進んでいることが分かります。また、資料2から、沿岸部を中心に1㎤あたりの二酸化硫黄排出量が多くなっていることが分かります。2つの資料を関連付けると、沿岸部で深刻な環境問題が起こっているのではないかと、ということが考えられます。
	(2)	ウ	表1から、スロバキア・ブルガリアといった東ヨーロッパの国々が、ドイツ・フランス・スペインといった西ヨーロッパの国々と比べて、EUへの加盟が遅く、一人あたりの国民総所得が低いことが分かります。資料3から、EUの東部や南部から、ドイツなどに来る外国人労働者が多いことが分かります。2つの資料を関連付けると、出かせぎを目的とした外国人労働者など移民への対応が問題になっていることが考えられます。
	(3)	イ	資料4から、北アフリカの国々と比べると、サハラ以南のアフリカの国々は1日1,90ドル以下で生活する人の割合が、20%以上の国が多いことが分かります。資料5から、サハラ以南のアフリカの国々を中心に輸出総額のうち1位の品目が占める割合が20%以上の国が多いことが分かります。2つの資料を関連付けると、わずかな種類の農水産物・鉱物資源の輸出だけに頼っている経済であるため、国民が毎年安定した収入を得ることができていないことが分かります。したがって、これらの国に対する国際的な支援が必要とされているのではないかと考えられます。
	(4)	ア	アメリカ合衆国におけるさまざまな民族の居住地を表したもので、特に南部でも大都市の人口にしめるヒスパニックの割合が高いことが分かる資料8を活用することで、「メキシコや中央アメリカなどの国々からの移民が多くみられるアメリカ合衆国の都市はどこか」という学習課題を解決することができます。また、アメリカ合衆国、カナダ、メキシコの2016年の製造業従事者における1時間当たりの平均賃金を表したもので、アメリカはメキシコの10倍以上となっていることが分かる資料6を活用することで、「それはなぜか」という学習課題を解決することができます。よって、この2つの組み合わせである方が正答と考えられます。
3	(1)	ウ	資料1は、日本の2025年(推計)の人口構成を表したものです。資料2は、日本の1930年の人口構成を表したものです。資料3は、日本の1980年の人口構成を表したものです。よって、年代の古い順に並び変えたものは、ウとなります。
	(2)	エ	2010年の日本人の出国者数は、約1700万人と読み取ることができ、過去最高でもないで、アは誤りとなります。日本人の出国者数と訪日外国人数が逆転したのは2010年代で、多いのは訪日外国人数なので、イも誤りとなります。2010年の訪日外国人の国籍で4番目に多かったアメリカ合衆国は、2019年の訪日外国人の国籍では5番目となっており、ウも誤りとなります。よって、資料4から読み取れることとして正しいものは、エとなります。
	(3)	ア	取り上げられている4つの県のうち、埼玉県と長野県は内陸部に、広島県と千葉県は臨海部に位置しています。日本では鉄鋼業に必要な鉄鉱石と石灰石はほとんど産出されず輸入に頼っているため、鉄鋼業は臨海部でさかんな産業となっています。養殖業、特に海面養殖業は波のおだやかな内海が適しています。鉄鋼業も養殖業もさかんだと考えられるDが広島県、鉄鋼業がさかんだと考えられるBが千葉県だと判断することができます。印刷業は大都市圏、特に東京大都市圏にある都県でさかんな産業となっています。印刷業がさかんだと考えられるCが埼玉県、残るAが長野県だと判断することができます。
	(4) ①	イ	敦賀市と新宮市を含む、日本海側から太平洋側の断面図においては、北寄りに琵琶湖、南寄りに紀伊山地が位置しているので、日本海側に平坦なところがあり、太平洋側にかけて標高が上がっていくという特徴をもちます。3つの選択肢のうち、これにあてはまるのはイということになります。なお、Aは日本ルプス(飛騨山脈・木曾山脈・赤石山脈)を含むことになる、富山市から静岡市にかけての断面図、ウは越後平野・越後山脈・関東平野を含むことになる、新潟市から横浜市にかけての断面図となっています。
	(4) ②	エ	太平洋側と日本海側で冬の天候が異なり、季節風が日本海側の地域に雨や雪を降らせるため、冬の降水量が多くなっている図3が日本海側に位置する敦賀市のものだと考えられます。中央高地は年間を通して気温が低く、降水量が少ないため、図4が松本市のものだと考えられます。図2は、同じように降水量が少なく、中央高地に比べると温暖な瀬戸内に位置する高松市のものだと考えられます。
	(5)	ウ	地図3からは、日本は世界的に見て火山と地震の震源が多い地域であること、環太平洋造山帯に属していること、プレートの境界と変動帯はほぼ重なっている、日本周辺にもそのような場所があることが分かります。よって、誤っているものはウとなります。
	(6)	ウ	資料6のうち、日本のエネルギー源別発電電力量の割合の推移については、原子力が2011年の東日本大震災を期に減少しています。アメリカのエネルギー源別発電電力量の割合の推移については、1990年代から2010年代にかけては石炭が大きな割合を占めています。2つの国において、2020年において最も割合が大きいのは石油・天然ガスとなっています。イギリスのエネルギー源別発電電力量の割合の推移については、2010年代頃から再生可能エネルギーが増え、2020年には4倍以上となっており、最も割合が大きいものとなっています。よって、正答はウとなります。
4	(1)	イ	日本の歴史の時代区分は古い順に、縄文→弥生→古墳→飛鳥(略年表中の①)→奈良→平安→鎌倉(略年表中の②)→室町→安土桃山(略年表中の③)→江戸→明治→大正(略年表中の④)→昭和→平成(→令和)となります。これらの区分は、文化の特色や政治の中心地を基にしたものです。時代区分の意味や意義を理解し、歴史学習を進めるにあたって活用しましょう。
	(2)	ウ	日本の歴史の時代区分において、縄文時代から平安時代、鎌倉時代にかけてを古代、平安時代、鎌倉時代から室町時代、安土桃山時代にかけてを中世、室町時代、安土桃山時代から江戸時代にかけてを近世と区分する考え方もあります。資料1の「日光東照宮」は徳川家康をまつために、徳川家光が江戸時代に造ったものです。資料2の「法隆寺」は、聖徳太子(厩戸皇子)が飛鳥時代に建てたとされるものです。資料3の「鹿苑寺の金閣」は、足利義満が別荘として室町時代に造った建物です。よって、時代区分と資料の組み合わせとして正しいものはウとなります。
	(3)	エ	西暦では、キリストが生まれたと考えられた年を「紀元1年(元年)」とします。そして、紀元1年から100年までを「1世紀」と表します。1894年を世紀で表すと、「19世紀の終わり」となります。また、歴史上の出来事は、ひとりに起こるわけではなく、背景や原因になった出来事や、影響を受けた出来事があります。「日清戦争は、日本の政治や国民の生活にどのような影響を与えたのだろうか」という学習課題を解決した場合には、日清戦争より後の時期を詳しく調べ、出来事の「相互の関連」を考えることで、歴史をより深く考えることができます。
5	(1)	イ	カードAの徳川家光は、参勤交代制度を整え、日本人の海外渡航と帰国を禁止するなど、幕藩体制の確立に努めた江戸幕府の第3代将軍で、江戸時代の人物です。カードBの足利義満は、有力な守護大名をおさえて幕府の支配を確立した室町幕府の第3代将軍で、室町時代の人物です。カードCの平清盛は、武士として初めて太政大臣になった平安時代の人物です。カードDの北条時宗は、支配下になることを求める元の使者を追い返し、二度にわたる日本への襲来を退けた鎌倉幕府の第8代執権で、鎌倉時代の人物です。年代の古い順に並びかえた組み合わせとして最も適切なものは、イとなります。
	(2)	エ	カード①は鎌倉時代について書かれたもので、カードDとの組み合わせになります。鎌倉幕府の政治は、執権を中心とする有力な後家人の話し合いによって行われました。カード②は平安時代について書かれたもので、カードCとの組み合わせになります。平安時代には院政が始まり、身分の低い貴族や武士にも活躍の場が与えられました。カード③は江戸時代について書かれたもので、カードAとの組み合わせになります。江戸幕府は、京都所司代を置いて朝廷を監視しました。カード④は室町時代について書かれたもので、カードBとの組み合わせになります。南北朝が統一されたのち、朝廷がもつ政治的、経済的な権限を次第に吸収した室町幕府は、将軍の補佐役として管領を置きました。よって、4つの組み合わせとして最も適切なものは、エとなります。
	(3)	イ	資料1の踏絵は、かくれているキリスト教信者を発見するために江戸時代につくられたもので、カードAとの組み合わせになります。資料2の博多湾岸につくられた石の防壁は、元軍の上陸を防ぐために鎌倉時代につくられたもので、カードDとの組み合わせになります。資料3の厳島神社は、平清盛によって平安時代につくられたもので、カードCとの組み合わせになります。資料4の勘合は、日明貿易の際に使うために室町時代につくられたもので、カードBとの組み合わせになります。よって、4つの組み合わせとして最も適切なものは、イとなります。
6	(1)	①…エ ②…エ (①、②両方できて正解)	資料2から、琉球王国は日本や中国、朝鮮半島、東南アジアにも船を送り、交易を行ったことが分かります。また、資料3と関連付けると、琉球王国は東アジアと東南アジアの国々を結ぶ中継貿易で栄えたことと考えられます。
	(2)	エ	資料4から、今堀郷では独自に村のおきてを作ったり、罪を犯したものを処罰したりしていたことが分かります。また、「堀で争いが起こったとき、堀の人々が犯人を捕まえて処罰している」ことが書かれた資料5と関連付けると、近畿地方を中心とした都市や農村において自治的な仕組みが成立していたと考えられます。
	(3)	イ	豊臣秀吉は資料6のような検地によって、田畑の面積や土地のよしあしを調べ、予想される収穫量を米の体積である石高で表すとともに、検地帳に実際に耕作している百姓を登録して、石高に基づく年貢を納めることを義務付けました。また、資料7から、一揆を防ぐため、百姓から刀・弓・やり、鉄砲などの武器を取り上げ、武士と農民との身分の区別を明確にしたことが分かります。これらを関連付けると、その後の身分制に基づく社会の土台が作られたと考えられます。
	(4)	ア	資料8から、江戸幕府は、江戸などの幕府付近には親藩・譜代大名を配置して、外様大名の領地はその外側においたことが分かります。資料9と関連付けると、大名を統制する決まりを定め、藩をとりつぱしたり、領地をかえたりする力をもっていたことで全国の支配を確立したと考えられます。
	(5)	ウ	日本の社会の交通面に着目すると、中世には馬借や車借といった運送業者が陸上の運搬を行うようになりましたが、近世になるとさらに、京都や大阪を中心とする上方で作られた品物が、大阪から南海路で大量に運ばれるようになりました。商業面に着目すると、中世には寺社の門前や交通の便利な所で毎月決められた日に定期市が開かれるようになりましたが、近世になるとさらに、大阪が「全国の商業の中心地」になって、諸藩が年貢米や特産物を売りさばくようになりました。よって、正解はウとなります。

4 特徴的な問題と解説

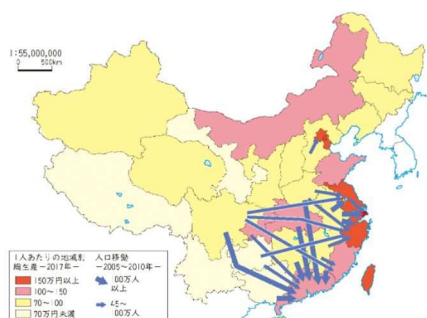
中・中等教育学校第2学年 社会 地理的分野「世界の諸地域」

【特徴的な問題】

2 あかりさんは、グローバル・スタディの時間での発表に向けて、取り上げる海外の国々や地域について調べています。

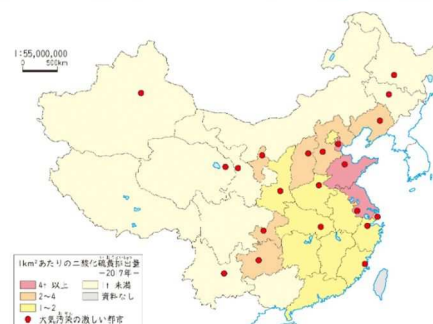
(1) あかりさんは、20世紀後半に人口が急速に増加したアジア州の国々で都市問題が発生していることを知り、中国について調べたところ、次の資料1と資料2を見つけました。

資料1 中国における1人あたりの地域別総生産と人口移動



(中国統計年鑑2018ほかより作成)

資料2 中国における1km²あたりの二酸化硫黄排出量



(中国統計年鑑2018ほかより作成)

あかりさんは、資料1と資料2をもとに、次のようにまとめました。

資料1から、中国の内陸部と沿岸部を比べると、

① という傾向がみられる。資料2と関連付けると、中国では、② と考えられる。

【出題の趣旨】

本問題は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）」に示された社会科地理的分野の「2 内容 B 世界の様々な地域 (2) 世界の諸地域」において、中国における人口動態、国内の経済格差、地域間の人口移動などを地域の人々の生活と関連付けて考察して、人口問題に関わる一般的課題と中国における地域特有の課題とを捉えることができるかどうかを調査するために出題した。

【指導のポイント】

○教科用図書「地図」を十分に活用しながら、地図の読図や作図、景観写真の読み取り、地域に関する情報の収集や処理などの地理的技能を身に付ける学習を計画的に進める。

地理的分野の学習を進める上では、地図の読図や作図、景観写真の読み取り、地域に関する情報の収集や処理などの地理的技能を身に付けることが必要となる。

このような技能を身に付けさせるにあたり、位置や分布などの広がり、移動や変化などの動向から全体の傾向性を踏まえて情報を読み取ることができることに気付かせたい。また、複数の情報を見比べたり結び付けたりして、同一地域の異なる情報を比較、関連付けて読み取ることができることにも気付かせたい。

【学びの知恵袋（授業アイディア例）】では、本市で採択している教科用図書「地図」にも掲載されている複数の資料を取り上げ、全体の傾向性を踏まえて情報を読み取ったり2つの資料を関連付けたりすることで、学習効果を高めることをねらいとした学習指導の場面を示している。

また、本時や単元のまとめの活動として、主題図を自ら作成する場面を設定することも考えられる。

【学びの知恵袋（授業アイディア例）】では、文章化された「本時のまとめ」を主題図の形で表すことで学習効果を高めることをねらいとした学習指導の場面を示している。

【学びの知恵袋(授業アイデア例)】

①前時までの学習内容や、小学校での学習内容を確認しながら、学習の見通しを立てる。



教師

前回の授業で、「アジア州の経済発展は、地域にどのような影響を与えているか」という「単元を貫く問い」を立てましたね。この問いに答えるための学習の見通しを立てましょう。

アジア州は広く、様々な国が経済発展しているので、国別に学習を進めていくとよいと思います。K-POP が好きなので韓国を取り上げてもいいですか？



生徒

小学校で、日本とつながりの深い国々について学習したときには、中国は日本にとって最大の貿易相手国で、シャンハイの港はコンテナの取り扱い量で世界第1位をほこることだったので、取り上げるとよいと思います。



生徒



小学校では、日本が最も多くの石油を輸入している国がサウジアラビアで、石油資源にめぐまれていることも学習したから、あわせて取り上げた方がよさそう。

そういえば、東南アジアの国々やインドも経済発展しているというニュースを見たよ。ASEAN、BRICS といったアルファベットの略称が使われていて難しかったな。

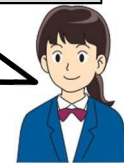


今、皆さんが挙げた国々を中心に、東アジア・東南アジア・南アジア・中央アジア・西アジアと日本から近い順に区分しながら学習していってはどうですか。

★学習指導上の留意点

小学校では第6学年の学習内容において「我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活」を取り上げていることを踏まえつつ、中学校社会科の地理的分野の学習では「世界の諸地域」として6つの州を取り上げるものであることに留意する。

特定の国だけ取り上げる形だと、アジア州の学習と言えないので、それがいいと思います。複数の国を取り上げて、それぞれの国の経済発展が地域に与えた影響を比べると、「単元を貫く問い」にせまることができると思うので、賛成です。



そうすると、今日は「東アジアの経済発展は、地域にどのような影響を与えているか」についての学習になるね。東アジアの国々を、分担して学習するのはどうかな？韓国を担当すれば、興味・関心をもって調べられるんじゃない？

ありがとう。ぜひ韓国を担当させてもらえると嬉しいな。





それでは、広いアジア州を区分して日本から近い順に学習する最初の回として、東アジアの国々の経済はどのように発展したのか、経済発展は地域にどのような影響を与えているか、分担しながら本時は学習しましょう。

②生徒の興味・関心を「本時の問い(学習課題)」として整理し、仮説と学習計画を立てさせる。

本時の問い

東アジアの国々の経済は、どのように発展したのだろうか。そして、経済発展は地域にどのような影響を与えているのだろうか。



「本時の問い」について、それぞれ仮説を立てましょう。また、その仮説を検証するために、どのように調べるのか、調べたことや考えたことをどのようにまとめて発表するのか、計画を立てましょう。

中国は、世界でも有数の面積の広さと人口の多さを生かして、大規模な工場をつくって経済発展したのだと思います。身の回りに「MADE IN CHINA」と書かれたものが多くあるからです。

また、小学校で、日本は工業が発展していく中で公害が発生したと学習したので、中国の経済発展も同じような影響を与えているのではないのでしょうか。

これらの仮説を検証するために、小学校で一緒に中国を調べた友人とともに分担して教科書や地図帳、資料集を使って調べたいと思います。「ミライシード」の「オクリンクプラス」でまとめ、それを皆に見てもらいながら発表します。



韓国は、中国と比べると国土が広かったり人口が多かったりする訳ではないので、日本と同じように高い技術を生かした工業生産や、情報通信技術を生かした産業によって経済発展したのだと思います。日本はゲームやアニメ、アメリカはハリウッドの映画が世界的に有名ですが、韓国の K-POP アーティストが行っている海外ツアーは、産業とも呼べるほど多くのお金が動いていそうです。経済発展の影響としては、面積が日本の約4分の1で、人口が日本の約2分の1であることを小学校で学習したので、特に都市では人口密度が高まって問題になっているのではないのでしょうか。

「NHK for school」に動画があるようなので、教科書などだけでなくインターネットも活用したいと思います。K-POPに興味・関心のある友人と分担して調べて、「PowerPoint」で共同編集しながらスライドにしてまとめます。完成したものは「Teams」のチャットに投稿して皆に見てもらいながら発表します。



仮説と計画を立てることができましたね。それでは、自分たちで決めた調べ方やまとめ方で、本日の学習を進めましょう。

★学習指導上の留意点

調査にあたっては、どのような資料や方法を用いるか、生徒自身が選択できるとよい。また、調査内容は「Word」「Excel」「PowerPoint」の共同編集を通じてクラウド上でまとめたり、「ミライシード」や「Teams」のチャット及び「Forms」を通じて集約したりするなど、ICT を活用して共有できるとよい（学びのポイント「じ・し・や・く」の「じぶんできめる」及び「クラウドでつなぐ」）。

③適宜、生徒の学習活動に指導助言を行う。



このグループは、中国の経済発展とその影響について、小学校で一緒に調べた友人とともに分担して教科書や地図帳、資料集を使って調べ、「オクリンクプラス」でまとめるグループでしたね。調べてみて、どのようなことが分かりましたか？

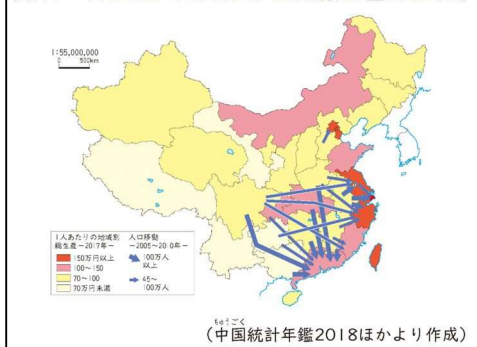
教科書や地図帳などによると、中国は、沿岸部に外国企業を受け入れる経済特区を設け、巨大な人口を背景とした賃金が安く豊富な労働力を生かして工業製品を生産したことで、世界各地に輸出を行う工業国に成長したそうです。このような経済の成長によって沿岸部で都市化が進むとともに、環境対策が追いつかず、問題となっているそうなので、これらが経済発展の影響といえそうです。



「沿岸部で都市化が進むとともに、環境対策が追いつかず、問題となっている」といえるのは、なぜなのでしょう？

資料1「経済格差と人の移動」によると、中国では沿岸部に「一人あたりの地域別総生産」の高い地域が広がり、内陸部の低い地域から人口が移動していることが分かります。また、資料2「大気汚染」によると、沿岸部に「1km²あたりの二酸化硫黄排出量」が高い地域が広がっていることが分かります。2つの資料を関連付けると「沿岸部で都市化が進むとともに、環境対策が追いつかず、問題となっている」ことが分かります。

資料1 中国における1人あたりの地域別総生産と人口移動



資料2 中国における1km²あたりの二酸化硫黄排出量





特定のテーマを詳しく描いた地図を、主題図といいます。2つの主題図を関連付けることで、「沿岸部で都市化が進むとともに、環境対策が追いつかず、問題となっている」ことが、よく分かりますね。

★学習指導上の留意点

学習指導要領に示された「学習の基盤となる資質・能力」である、情報モラルを含む情報活用能力や、「社会的事象等について調べまとめる技能」における「収集した情報を社会的な見方・考え方に沿って読み取る技能」を身に付けさせるよう留意する。

都市化が進むことで起こる問題は環境問題の他にないか、さらに調べてみます。



このグループは、韓国の経済発展とその影響について、インターネットも活用して調べ、スライドを共同編集してまとめるグループでしたね。調べてみて、どのようなことが分かりましたか？

「NHK for school」で配信されている動画「[発展する韓国の文化と産業](#)」によると、韓国は、国として文化事業の発展を目指し、ゲームやアニメ、映画など、分野ごとに専門の学校や機関をつくって人材の育成が進めたそうです。また、電気製品の輸出も盛んに行なわれ、世界規模の電気メーカーもあるとのことで、自分も見覚えのあるメーカーの商品が紹介されていました。また、韓国政府の代表ポータルサイトである「KOREA.net」の「[経済](#)」のページによると、韓国は1960年代からは輸出主導型の経済発展計画を推進し、1970年代には重工業製品の輸出の基盤を築いたそうです。自動車など生産した工業製品を輸出する様子は、小学校で学習した「日本の工業生産と貿易・運輸」にそっくりだと思いました。この後「国際社会で先進国の仲間入りを果たした」とあるので、このことが経済発展が与えた影響だと考えました。



国際社会で先進国の仲間入りを果たしたこと以外に、経済発展が与えた影響については分かりましたか？

★学習指導上の留意点

生徒が「本時の問い(学習課題)」に迫ることができているかどうか確認し、指導する。

残念ながら、その他の影響は読み取れませんでした。特に、「KOREA.net」は韓国政府の代表ポータルサイトということで、書かれている文章が難しいことに加えて、サイトの性格上、マイナス面にあたるものは書かれていないように思います。





どのようなサイトを使うとしても、誰がどのような意図で発信している情報なのか、ということに留意する必要がありますね。信頼できる情報源として、教科書や地図帳も今一度活用してみましょう。

★学習指導上の留意点

学習指導要領に示された「学習の基盤となる資質・能力」である、情報モラルを含む情報活用能力や、「社会的事象等について調べまとめる技能」における「収集した情報を社会的な見方・考え方に沿って読み取る技能」を身に付けさせるよう留意する。

④生徒の学習内容をクラス全体で共有する。



皆さん、「オクリンクプラス」を見てください。このグループでは、…。

中国は、沿岸部に外国企業を受け入れる経済特区を設け、巨大な人口を背景とした賃金が安く豊富な労働力を生かして工業製品を生産したことで、世界各地に輸出する工業国に成長したことがよく分かりました。経済の成長によって都市化が進むとともに、環境対策が追いつかず、問題となっていることも、この前見たニュースの内容とつながってよかったです。スーパーマーケットでは中国産の農産物も見かけますが、農業は盛んではないのですか？



今日はまだ調べられていないので、自主学習で取り組もうと思います。

取り組んだら、その成果をぜひクラスに共有してくださいね。



続いて発表します。画面共有しながら話したいので、「Teams」の会議に入って画面を見ながら聞いてください。私たちは、…。

韓国では、国として文化事業の発展を目指し、ゲームやアニメ、映画など、分野ごとに専門の学校や機関をつくって人材の育成が進められたことがよく分かりました。また、電気製品の輸出も盛んに行なわれ、世界規模の電気メーカーもあることや、日本や欧米、他のアジアの国々などへの自動車の輸出額も年々増えているとのことですが、どちらも街中で見たことがあるメーカーでした。

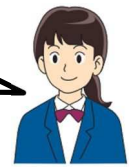


⑤各生徒が本時の学習内容をまとめ、振り返る。



それぞれ、素晴らしい発表ができましたね。それでは、クラスメートが発表した内容なども含めて、本日の学習をまとめてみましょう。

文章にまとめたものを、「Teams」のチャットに投稿しました。



本時のまとめ

中国は、沿岸部に外国企業を受け入れる経済特区を設け、巨大な人口を背景とした賃金が安く豊富な労働力を生かして工業製品を生産したことで、世界各地に輸出する工業国に成長した。経済発展によって都市化が進むとともに、環境対策が追いつかず、問題となっている。

韓国では、国として文化事業の発展を目指し、分野ごとに専門の学校や機関をつくって人材の育成が進められた。また、電気製品や自動車の輸出も盛んに行なわれ、世界規模のメーカーもある。

共通点は、経済発展して農村からの出稼ぎや労働者が集まったことで、首都をはじめとする多くの都市へ人口が移動して、それにより様々な問題が起こっているということで、これが東アジア州にみられる経済発展の影響だと考えられる。

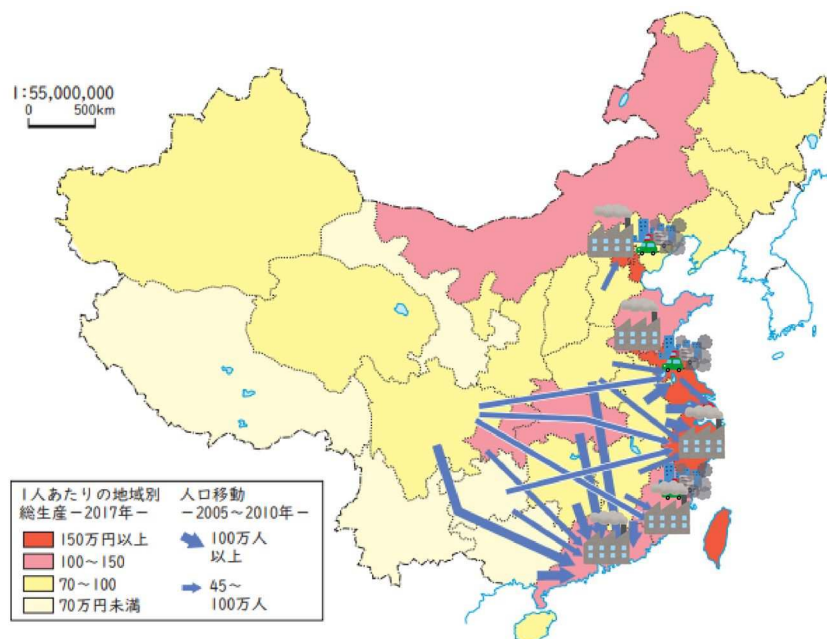


調べたことや、まとめたことを地図で表すこともできます。特に、経済が発展して都市へ人口が集中していること、それによって環境問題などが起こっていることを地図で表そうとすると、どのようになりますか？

★学習指導上の留意点

学習指導要領に示された「調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能」として、地理情報を地図にまとめて主題図を作成する力を身に付けさせるよう留意する。

工業化が進んだことで中国の経済が発展して、都市へ人口が集中していること、それによって環境問題などが起こっていることを地図で表したものを、「ミライシード」の「オクリンクプラス」で共有します。





工業化によって人口が集中している都市の位置と、それによって環境問題などが起こっている地域の分布がよく分かりますね。本日の学習を振り返って、気付いたことや新たに疑問に思ったことはありますか？

貿易が関係していることもあって、沿岸部で工業化が進んで都市ができていくというのは、日本と共通することだと思いました。この特徴が、東アジアの国々にだけ見られるものなのか、アジア州全体や世界にも共通するものなのか、気になります。



取り上げた東アジアの国々では、面積と人口が比例しているように思いました。この関係がアジア州の他の国々でも見られるか、調べてみたいです。



皆さんの新たな問いを、これからの学習につなげていきましょう。

令和6年度　さいたま市学習状況調査委員会・教科等部会名簿【社会】

【小学校校長会】	下落合小学校	校長	小田切	倫子
【中学校長会】	上大久保中学校	校長	高久	正行
【活用推進委員会（小学校）】	徳力小学校	校長	丸山	謙一
【活用推進委員会（中学校）】	与野西中学校	校長	内田	崇史

【小学校社会科部会】

部長	大谷場小学校	校長	山田	和宏
副部長	美園北小学校	教頭	小林孝太郎	
部員	大谷場小学校	教諭	中丸	裕人
	沼影小学校	教諭	八木澤耕太	
	神田小学校	教諭	松本	由佳
	中島小学校	教諭	野津	貴史
	東大成小学校	教諭	能登	恭平
	大砂土小学校	教諭	脇	美咲
	上落合小学校	教諭	上園勇輝也	
	美園小学校	教諭	鈴木	智仁

【担当】

教育研究所	主任指導主事	渡會	哲弘
総合教育相談室	主任指導主事	南	大志

【中学校社会科部会】

部長	慈恩寺中学校	校長	高波	國夫
副部長	大久保中学校	教頭	齊藤耕太郎	
部員	岸中学校	教諭	大谷	優
	本太中学校	教諭	本間	智美
	南浦和中中学校	教諭	高桑	博樹
	三橋中学校	教諭	吉田	耕大
	植竹中学校	教諭	小池	裕
	馬宮中学校	教諭	太田	滉貴
	与野西中学校	教諭	大越	一毅
	美園南中学校	教諭	田所	佑樹

教育研究所	指導主事	青木	翔
教育課程指導課	主任指導主事	高見澤	悠

令和6年度　さいたま市学習状況調査　解説資料【改訂版】　社会

令和7年2月　発行

発行　さいたま市教育委員会

編集　さいたま市立教育研究所
